

令和 5 年 度 科 目 案 内

「北 稜 シ ラ バ ス」



1 年 生

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	現代の国語	2	1年生全員	小林・柴田
教科書	『精選 現代の国語』 東京書籍	副教材	『デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧』 大修館書店	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(知識および技能)
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

別紙

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまりごとに(定期考査までを学習のひとまとまりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 言語活動を行うために必要な語彙や文法事項などについて理解し、知識を身につけているかどうか、また書かれたものを正確に読解できているかどうかを評価します。	語彙(漢字)や文法の知識／読む能力 定期考査 小テスト
②思考・判断・表現 論理的に／豊かに考えられているかどうか、他者と関わる中で伝え合うことができているか、自己の思いを深められているかを評価します。	話す・聞く能力／書く能力／読む能力 定期考査 パフォーマンス評価(発表・発言・記述等)
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強い取組ができているか、また、その取組の中で自らの学習を調整できているかどうかを評価します。	自己評価 定期考査 提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

論理的に考えるとは？をテーマに、「読む」「書く」「話す・聞く」という国語の基礎的な力を養います。毎週の漢字テストも含め、全ての教科の土台となる学習ですので、1年間頑張りましょう。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	言語文化	2	1年生全員	小林・柴田
教科書	『精選 言語文化』 東京書籍	副教材	『九訂版 読解をたいせつにする体系古典文法』数研出版 『デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧』大修館書店	

1. 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識および技能)
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

別紙

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまりごとに(定期考査までを学習のひとまとまりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①知識・技能 言語文化を理解するために必要な語彙や文法事項を理解し、知識を身につけているかどうか、また書かれたものを正確に読解できているかどうかを評価します。	語彙(漢字)や文法の知識／読む能力 定期考査 小テスト
②思考・判断・表現 論理的に／豊かに考えられているかどうか、他者と関わる中で伝え合うことができているか、自己の思いを深められているかを評価します。	話す・聞く能力／書く能力／読む能力 定期考査 パフォーマンス評価(発表・発言・記述等)
③主体的に学習に取り組む態度 ①②の力を身につけるために粘り強い取組ができているか、また、その取組の中で自らの学習を調整できているかどうかを評価します。	自己評価 定期考査 提出された課題等

4. 担当者からのメッセージ

書かれた時代や国境を越えて、現在の私たちに受け継がれてきた「ことば」の「文化」を知ること、豊かな国語の力を身につけていきましょう。

年間学習計画

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
1	言語文化 読1「作品を読み比べる」	・多様な形式の作品を読み比べながら、日本文化のありようを探る。	表現	教科書 「桜に関する作品を読み比べる」	
	現代の国語 読1「自己と他者」	・対比的に書かれた評論を読み取る。 ・評論の書かれ方を理解し、読み方を知る。	表現	教科書 『届く言葉』 「評論の読み方を知る」	
	現代の国語 話1「分かりやすい説明をする」	・目的や相手に合った分かりやすい説明をする。	表現	教科書 「分かりやすい説明をする」 「図書館の利用法」	
	言語文化 読2「小説1」	・登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題について考える。	表現	教科書 『羅生門』 「小説の読み方」	
	言語文化 読3「古文入門」	・歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。		教科書 『児のそら寝』 「古文学習のしるべ1・2」 副教材「体系古典文法」	
	言語文化 読4「古文入門」	・文語の活用について理解し、叙述を基に人物像を読み取る。	表現	教科書 『絵仏師良秀』 『大江山の歌』 「古文学習のしるべ2・3」 副教材「体系古典文法」	
	現代の国語 読2「認識を深める」	・日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。	表現 国際	教科書 『水の東西』 「思考への扉1——文化の東西」	
	現代の国語 話2「発想を広げて課題を見つける」	・発想を広げてアイデアを整理し、的確に伝える。	表現	教科書 「発想を広げて課題を見つける」	
	現代の国語 書1「手順を整理して正確に伝える」	・情報を分かりやすく整理し、表現を検討して手順書を書く。	表現	教科書 「手順を整理して正確に伝える」	
	現代の国語 話3「本を紹介する」	・話の構成や、紹介の仕方を工夫して話す。	表現	教科書 「本を紹介する」	
	言語文化 読5「漢文入門」	・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 ・漢和辞典の使い方を知り、漢字の読みと意味の関係について理解する。	国際	教科書 「訓読の基本」 「故事成語——三篇」	
				期末考査	
2	言語文化 読6「寓話」	・話の展開や登場人物の言動を読み取り、寓話に込められた意図について考える。	表現	教科書 『借虎威』 『塞翁馬』	
	現代の国語 書2「問いを作り、意見をまとめる」	・読んだ文章から問いを作り、構成を工夫して意見をまとめる。	表現	教科書 「新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる」	
	現代の国語 読3「言葉と社会」	・「豊かさ」とは何かについて書かれた評論を読み、その考え方の違いについて理解を深める。	表現	教科書 『まちの豊かさとは何か』 「思考への扉——コミュニティのこれから」	
	現代の国語 書3「調べた資料を説明資料にまとめる」	・情報の信頼性を吟味し、伝える相手や目的に応じてまとめる。 ・グラフや写真の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。	表現	教科書 「調べた資料を説明資料にまとめる」 「グラフや写真の読み取り方」	
	言語文化 読7「随筆」	・随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。	表現	教科書 『徒然草』 副教材「体系古典文法」	
				中間考査	

学期	単元	学習目標	特色	教材	自己評価
2	言語文化 読8「歌物語」	・歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。	表現	教科書 『伊勢物語』 「古文学習のしるべ4」 副教材「体系古典文法」	
	現代の国語 話4「情報を整理しながら話し合う」	・話し合いの進め方を工夫し、考えを深める。	表現	教科書 「情報を整理しながら話し合う」	
	言語文化 読9「短歌」	・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。		教科書 「こころの証」	
	言語文化 読10「和歌」	・和歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。		教科書 『万葉集』『古今和歌集』 『新古今和歌集』 国語便覧 『小倉百人一首』	
	言語文化 読11「恋の歌を読み比べる」	・さまざまな時代の恋の歌を読み比べて、ものの見方、感じ方、考え方を深める。		教科書 「恋の歌を読み比べる」	
	言語文化 書1「短歌を作る」	・自分の感じたことや伝えたいメッセージなどを、短歌にし、効果的に書く。	表現	教科書 「短歌を作る」	
	現代の国語 読4「言葉と社会」	・他言語と比較することで言葉の意味の在り方を理解し、言葉に関心を持って言語生活を豊かにする。	表現 国際	教科書 『言葉は世界を切り分ける』 『ものと記号』	
				期末考査	
3	言語文化 読12「詩文」	・漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。	国際	教科書 「絶句と律詩」 「漢文の窓4」	
	言語文化 書2「訳詩を書く」	・元の漢詩の魅力が効果的に伝わるように、表現を工夫して訳詩を書く。	表現		
	現代の国語 書4「共に生きる」	・読み比べて考えを明確にし、伝わりやすい構成で書く。 ・引用の方法を学び、適切に引用できるようにする。	表現	教科書 『真の自立とは』 『自立と市場』 『共鳴し引き出される力』 「異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く」 「引用の方法」	
	言語文化 読13「作り物語と軍記物語」	・作り物語に表れた多様な思いを、叙述を基に的確に捉える。 ・軍記物語特有の表現に注目しながら、登場人物の描かれ方を読み取る。	表現	教科書 『竹取物語』 『平家物語』 副教材「体系古典文法」	
	現代の国語 書5「論証してレポートを書く」	・論点を整理して論証し、レポートの形式で書く。	表現	教科書 「論証してレポートを書く」	
	現代の国語 話5「探究したことを発信する」	・発表の仕方や、話の聞き方を工夫する。	表現	教科書 「探究したことを発信する」	
	言語文化 読14「史話」	・話の展開や登場人物の言動を読み取り、史話のおもしろさを味わう。	表現 国際	教科書 「史話」	
				学年末考査	

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	北稜探究 I	1	1年生全員	青柳・小林・佐野 柴田・本岡・中田 荻原・坂田・中野 濱名・福井
教科書	なし	副教材	第一学習社 小論文チャレンジノート	

1. 学習の目標

・課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけ、探究の意義や価値を理解する。
 ・実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
 ・探究に主体的・協働的に取り組むと共に、互いの良さを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

定期考査は実施せず、毎時間ごとの参加と課題提出が基本となるので、欠席をせず、時間内に課題を仕上げるように取り組む。スピーチや発表では、話すこと、聞くことに積極的に取り組む。グループワークでは、様々な価値観を持つ他者と交流し、意見を交換しながらまとめていくようにする。出された課題は丁寧に取り組み、必ず期限内に提出する。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・スピーチ、発表 ・小論文模試 ・その他成果物
②思考・判断・表現 知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・スピーチ、発表 ・小論文模試 ・その他成果物
③主体的に学習に取り組む態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・グループワークの様子 ・課題の提出状況 ・レポート、自己評価等

4. 担当者からのメッセージ

北稜高校は長年「国際教育」「環境教育」「表現活動」を教育の特色として力を入れてきました。この「北稜探究 I」では、おもに環境教育に重点を置き、自ら課題を見つけ、新たな知識を得、それを表現する力を養います。1年間、楽しく学びましょう。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	自己評価
1	オリエンテーション	・シラバス説明(北稜探究の目標、学習内容、評価等について) ・授業担当者自己紹介		
	読書紹介	・新書を読み、新たに知ったことをまとめて未読の人に伝える。	・グループ内発表 表現	
	他者の好きなモノ紹介	・他者にインタビューして、「好き！」に関する楽しいエピソードを数多く聞き出し、それを魅力的な発表に仕上げる。 ・他者から楽しいエピソードを聞き出す工夫やそれを魅力的に伝えるためのポイントを学ぶ。	・インタビュー ・スライド選定 ・スピーチ 表現	
	小論文の作成	・身近な実社会に潜む諸課題(とくに環境問題)への問題意識を持ち、それに対する自らの考えを小論文の形で表現する。 ・小論文の書き方の基本や社会問題に対する調査の仕方を学び、文章で自分の考えを伝える表現力を磨く。	・現状や課題、解決策を調べる ・小論文作成 環境 表現	
2	環境問題のつながりを考える	・SDGsと環境問題について学び、環境問題を学ぶ意義を把握する。 ・環境問題どうしのつながりを考え、それをスライドにして他者にプレゼンテーションを行う。 ・自然がお互いに関連した複雑なシステムであることを知り、それを具体例を挙げて論理的に説明する力を付ける。 ・他者を引きつけるプレゼンテーションにするためのポイントについて学ぶ。	・発表原稿作成 ・スライド作成 ・プレゼンテーション 環境 表現	
	問を立てる	・写真や図、グラフなどを見て思い浮かぶ素朴な疑問、「はて」「なぜ」を見つけ、自分なりの問をつくる練習をする。 ・自らの問に対する答を見つけるためにはどうすればよいかを考え、実践してみる。 ・2年生での探究活動の基礎となる「問さがし」の導入として、主体的に取り組めるようにする。	・班活動 ・発表原稿作成 ・スライド作成 ・プレゼンテーション 環境 表現	
3	環境動画の制作	・環境問題の中から関心のあるテーマを見つけ、それを他者に伝える動画を制作する。 ・テーマの見つけ方や動画の構成、魅力的な伝え方など、この1年間の探究で学んだことを1本の動画に集約する。 ・各クラスの優秀作品は、全体の発表会で上映される。	・環境動画の作成(1~2分) ・優秀作品発表会での上映 環境 表現	

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
公民	公共	2	1年全クラス	大島 宮崎
教科書	公共(東京書籍)	副教材	公共ワークノート(東京書籍)	

1. 学習の目標

現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

復習を中心に、定期的に家庭学習の時間を設ける。授業で出てきた用語を用語集等使って調べたり、関連の事柄を新聞やインターネット等を使って深める癖を付けることで、自ら調べ知識を付ける力を付ける。今何を学習しているのかを常に確認しながら授業を受け、現代の社会で問題になっている具体的な事柄と結びつけながら考えられるようになる。そのため、新聞やニュースにも関心を持って知識を深める努力ができる。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	○よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。

4. 担当者からのメッセージ

授業を大切にし、ノートやプリントの取り方を工夫する。板書やスライドを写すだけでなく、説明をよく聞き、今何を学習しているか常に確認しながら授業を受けること。復習のための家庭学習時間を習慣化すること。新聞やTVのニュースにも関心を持つようにしよう。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	1 青年期と自己形成の課題 表現 2 自己形成と社会への参画 表現 環境 3 個人として尊重される人間 表現 国際 4 社会的な存在としての人間 表現 国際 5 伝統・文化のなかの人間 表現 国際 6 功利主義と幸福の原理 7 義務論と公正の原理 表現 環境 国際 8 公共的な空間における協働とは 表現 環境 9 民主主義とは 表現 国際 10 立憲主義とは 表現 環境 国際 11 人権保障の意義と展開 表現 環境	○青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について考察する。 ○キャリア開発や社会参画の視点から、青年期に生きる自己形成の課題について考察する。 ○カントやJ.S.ミルの考え方の理解を基に、人間を「個人」として尊重する意味について考察する。 ○アーレントやハーバーマス、和辻哲郎の思想の理解を手がかりに、社会的な存在としての人間のあり方及び公共空間について考察する。 ○丸山真男の考え方、「公」と「私」の捉え方などを手がかりに、ものの捉え方や考え方が伝統・文化と深くかかわっていることを理解し、そこにおける課題について考察する。 ○行為選択の理由付けとして、行為論と義務論の考え方を学ぶ。 ○先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論する。 ○社会における利害の調整のしくみとしての市場の働きと国家の役割、及びそれぞれの課題について理解します。 ○社会における意見や利害の調整、意思決定における民主主義の意義、それらの課題について理解する。 ○法の支配や近代立憲主義の意義について、歴史的背景もふまえながら理解する。 ○立憲主義と民主主義の緊張関係の ○公共的な空間における基本的原理の一つである、人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について理解する。	○青年期における心の動きや自分自身の捉え方、人間関係などの特徴をふり返りながら、青年期の特徴や発達課題について理解する。 ○現代社会で生きていく上で、青年期に求められることは何か、幅広く考えるとともに、キャリア開発や社会参画の意義について気付き、考え ○規則と自由に関する課題について、実際の場面を想定しながら、理解を深める。 ○「公共」の意味について考えながら、社会的存在としての人間について理解する。 ○日常使われている言葉の意味や用法に伝統や文化がかかわっていることに気付き、それがどのような課題につながっているか考察する。 ○行為論と義務論の区別について理解する。 ○思考実験を用いて選択・判断とその理由について考察する。 ○市場機構における財やサービスの配分が社会の利害調整の役割をしていることに気付きます。また、国家による調整は、立憲主義に基づく手続きによることを理解する。 ○民主主義の手続きや方法の意義について具体例をあげながら理解するとともに、その課題について考え ○中学校社会科での学習もふまえながら、法の支配や立憲主義の意義について、基本的人権の尊重や権力の濫用防止の観点から理解す ○人間の尊厳と平等、基本的人権の尊重の意義について理解するとともに、歴史的経過のなかで発展し今日に至っていることに気付く。 ○現代における人権の展開については、国内の法整備にも具体化されていることに気付く。 (中間考査)
	テーマ1「民意を反映した政治を実現するには？」 12 私たちの民主政治 表現 環境 国際 13 地方自治のしくみと役割 表現 環境 国際	○政治の働き、民主主義の具体的な姿について理解するとともに、現在の民主主義の課題について考察する。 ○地方自治の原則としくみ、地方財政のしくみと課題、住民参加の形態と意義について理解するとともに、地方自治の課題について考察する。	○身近に存在する政治に気付くとともに、民主主義にかかわる制度や活動について理解する。 ○現代民主主義の課題については、20世紀の歴史をふまえながら考察する。 ○地方自治の本旨について確認すると同時に、国の政治と比較しながら地方自治のしくみについて理解する。 ○地方財政については、具体例などを取り上げながら、財政や事務について理解する。

	14 国会のしくみと役割 表現 国際 15 内閣のしくみと役割 表現 環境 16 政治参加と選挙 表現 環境 17 政党と利益集団 表現 環境 18 メディアと世論 表現 環境	○三権分立と国会の地位、国会の役割と権限、国会の構成と運営について、実際の政治事象とも関連させながら理解する。 ○政治のしくみと制度を前提として展開される実際の政治の運営の現状と課題について考察する。 ○内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革について、実際の政治事象とも関連させながら理解する。 ○国会を基盤に行政権を行使する内閣と行政組織、行政権が肥大化した今日の行政の課題について考察する。 ○政治参加のさまざまな方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題について、実際の事象とも関連させながら理解する。 ○有権者の意思をよりよく反映するという視点から、日本の選挙制度について考察する。 ○民主政治における政党の役割、日本の政党政治、政治に影響を及ぼそうとする利益集団、政治資金にかかわる課題などについて理解する。 ○民主政治における政党や利益集団の役割、政治資金にかかわる課題について考察する。 ○民主主義における世論の意義、メディアの世論への影響、インターネット時代の世論形成の現状と課題などについて理解する。 ○世論形成に及ぼすメディアの役割、正しい情報に基づく合理的な判断の重要性について考察する。	○三権分立、国会の組織と権限については、日本国憲法の該当条文も参照しながら、理解する。 ○実際の政治事象を取り上げながら、国会の果たしている役割について具体的に理解する。 ○内閣と国会の関係については、日本国憲法の条文を参照すると同時に、実際の政治事象を参考に理解する。 ○行政機構と行政事務については、具体的な事例を参考に理解する。 ○行政権の役割の拡大に伴う諸課題と対応について具体例を取り上げ ○近代の選挙の原則の重要性を確認するとともに、日本の選挙制度について、近年の実施例なども取り上げながら、具体的に理解する。 ○18歳から選挙権を有することをふまえ、投票による政治参加の意義に気付く。 ○選挙の際の政党の政権公約、政党間の議論などを参考に、政党の役割に気付く。 ○利益集団についても具体例をあげながら政治的意味に気付く。 ○政治資金については、関連する報道などを参照し、政治資金の規正の重要性に気付く。 ○メディアが取り上げる論点を比較したり、変化していく世論に気付いたりすることによって、民主主義における世論の重要性を理解する。 ○政府やメディアが行う世論調査の内容を概観し、世論のイメージを把握する。 (期末考査)
2	テーマ2「法は私たちの生活にどのようにかわるのか？」 19 法と社会規範の役割 表現 環境 20 法の成立と適用 表現 環境 テーマ3「現代の市民生活における私法の役割と意義は何 21 市民生活と法 表現 環境 22 多様な契約 表現 環境	○道徳を含む社会規範における法の特色、法の役割、法の区分とそれぞれの特色について理解する。 ○法の性格や役割、法の分類、法の成立の歴史や対象などによって区分されることについて考察する。 ○法案の作成と提出、民事裁判と刑事裁判、裁判における法の適用、法の解釈の意味などについて理解する。 ○民事裁判、刑事裁判の手続きの特色、法の適用と解釈、市民にも求められるリーガルマインドの意義について考察する。 ○私法の性格、私法の三つの原則、過失責任の原則などについて理解する。 ○私法の三つの原則の意義、公共の福祉とのかかわり、過失責任の原則の意義について考察する。 ○契約自由の原則、契約の種類、契約自由の原則の修正などについて理解する。 ○契約の種類とその特色、契約自由の修正が必要な理由について考察する。	○法の特色、法の役割については、具体例をあげながら理解する。 ○社会法については、日本国憲法に定める社会権の規定との関連に気付く。 ○民事裁判、刑事裁判に関する報道などを参考に、両者の手続きの特色について理解する。 ○法の解釈、判例については、実際の裁判事例をとおして理解し、関心を持つ。 ○身の回りの具体的な例を取り上げて、私法と私法の3原則、過失責任の原則について理解する。 ○日本国憲法の関連する規定も参照する。 ○売買契約、賃貸借契約、労働契約、消費貸借契約などについて、具体的な例を取り上げ、契約自由の原則の意義とその修正が必要な場合について考える。

23 消費者の権利と責任

表現

環境

テーマ4「国民が司法に参加するうえで考えるべきことは何
24 司法のしくみと役割

表現

環境

25 刑事司法と司法参加の意義

表現

環境

テーマ5「公正で自由な経済活動のために政府の役割はどうあるべきなのか？」
26 私たちと経済

表現

環境

国際

27 市場経済のしくみ

表現

環境

28 国民所得と経済成長

表現

環境

国際

テーマ6「金融はどのような役割を担っているのだろうか？」
29 金融のしくみと働き

表現

環境

30 中央銀行の役割と金融環境の変化

表現

環境

テーマ7「持続可能な財政」を実現するためにどうするべきだろう

○消費者契約の特色、消費者法制と消費者の権利、消費者主権と消費者市民社会形成などについて理解する。
○消費者契約や消費者法制が、消費者の権利とその尊重、自立支援をめざしていることについて具体的な例をとおして考察する。

○司法権とその独立、裁判制度のしくみ、違憲審査権について理解する。
○司法権の独立、三審制、違憲審査権の意義について考察する。

○刑事司法のしくみや原則、刑事司法の課題、裁判員制度や検察審査会制度について理解する。
○刑事司法の課題や司法への民意の反映の意義と課題について考察する。

○経済活動の意義、経済主体と経済循環、グローバル化のなかの経済活動の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解する。
○経済循環について、例えば「家計」を中心にして、「政府」「企業」との関係を説明できるようにする。
○市場経済における価格の働き、市場の失敗と政府の役割について、実際の経済事象とも関連させながら理解する。
○市場メカニズムの意義と限界、政府の役割が求められることとの関係について考察する。
○経済の指標の計算方法と意味、経済成長とその要因、景気変動と物価について、実際の経済事象とも関連させながら理解する。
○景気変動や物価の変動、インフレーションなどが人々の生活にどのように影響を及ぼすか考察する。

○貨幣の役割と通貨制度、直接金融と間接金融、金融システム、金融市場と金利の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解する。
○金融と金融システムが日々の生活と密接にかかわっていることに気付く。
○中央銀行の役割、中央銀行の行う金融政策、金融の自由化と金融商品の多様化について、実際の経済事象とも関連させながら理解する。
○金融政策の近年の動向、金融の自由化と金融商品の多様化にともなうような課題があるか考察する。

○消費者問題の例を取り上げて、消費者契約や消費者法制、消費者支援機関の役割、消費者市民社会の形成について考える。

○司法権の独立を確保するための日本国憲法の規定、三審制や裁判の原則公開、国民審査などの制度の意義について考察する。
○違憲審査権については、違憲判決がなされた事例を通じてその意義に気付く。
○刑事手続きが法令に則って進められること、被疑者や被告人の権利保障についても理解する。
○刑事司法の課題や司法への民意の反映については、例えば報道の資料などを用いて関心を持つ。
(中間考査)

○希少性、機会費用、トレードオフについて、経済の特性を捉える基本概念であることに気付く。
○経済循環における経済主体間の関係には、市場を通じたものと、法令に基づく制度として行われるものとがあることに気付く。
○価格の働きについては、需要曲線・供給曲線を利用して理解する。
○外部不経済、寡占市場における資源配分のゆがみなどについては、具体的な事象を参照しながら理解する。
○経済の大きさや動きなどを示す指標としてGDPがあること、また、豊かさを示す上でのGDPの限界にも気付く。
○経済成長率は、経済政策の目安となると同時に、各国の経済の動向を示す目安としても用いられている

○銀行や証券会社、保険会社などの具体的な金融機関の業務などを調べることをとおして、金融のしくみについて理解する。

○金融政策については、市場における通貨量の調整がどのようにして図られるのか、そのしくみに着目して理解する。
○金融の自由化、金融商品の多様化が、消費者にどのような利便性と課題をもたらしているか、具体的に

	31 財政の働き 表現 環境 32 財政の課題 表現 環境 33 社会保障の考え方 表現 環境 国際 34 社会保障の課題とこれから 表現 環境 国際	○財政の三つの機能、財政政策、財政のしくみや租税法律主義などについて、実際の事象とも関連させながら理解する。 ○財政と財政政策を通じて、経済政策や福祉政策その他の政策が行われて ○租税の分類、課税の原則、国債の役割、財政問題と財政危機について、実際の事象とも関連させながら理解する。 ○財政問題については、資料を読み取りながら問題解決の方向性について考察する。 ○社会保障の意義と歴史、日本の社会保障制度について、実生活とのかかわりも含めて理解する。 ○社会保障制度の意義について、多面的・多角的に考察する。 ○少子高齢化の進む日本の現状、社会保障の財源確保、社会保障と経済の活性化とのかかわりなどについて理解する。 ○少子高齢化の進展のなかで、今後の社会保障制度をどのように展望するか	○所得の再分配や財政政策については、具体例をとおして理解する。 ○財政については、歳入構造、歳出構造の変化の背景に気付き、財政の動きに関心を持つ。 ○租税の種類については、事例をあげながら理解する。 ○財政問題については、テーマ3の内容とも関連させて、問題の解決の方向性について考える。 ○日本の社会保障制度の四つの柱については、さまざまな生活場面を想定して具体的に理解できるようにする。 ○日本の社会保障制度については、保険制度、公費によるものなど ○高齢化、少子化がもたらす影響をさまざまな視点から理解する。 ○今後の社会保障制度の方向性として、低福祉・低負担、高福祉・高負担などの観点から考える。 (期末考査)
3	テーマ8「これからの時代の職業選択をどのように考えればよいだろうか？」 35 働くということ 表現 環境 36 多様な職業選択 表現	○働くことの意義、産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割などについて、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。 ○技術革新の進展のなかで、今後の職業や労働がどのように変化していくのか、そこにおける課題について考察する ○職業選択のポイント、多様化するキャリア選択、キャリア形成の課題について、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。 ○職業選択の機会の多様化とこれからのキャリア形成の課題について考察する。	○職業については、社会生活における意義や役割、産業とのかかわりなどの視点から理解する。 ○労働市場における労働力の需給調整については、有効求人倍率などを参考にして理解する。 ○自分の抱いている職業観とその職業が必要とする能力との関連について考える。 ○自分のこれまでの学習や経験をとおして形成してきたキャリアが、今後の職業とどのように結びつくか考える。
	テーマ9「望ましい労働環境を実現するために必要な取り組みは何か？」 37 労働者の権利 表現 環境 38 現代の雇用・労働問題 表現 環境 テーマ10「国際社会の課題を解決するためにどのようなルールが必要か？」	○資本主義社会における労働契約の特性、労働者の権利と労働三法の内容、労働条件改善に向けた課題について、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。 ○労働契約の特性をふまえて、労働者の権利保障が必要であることについて考察する。 ○雇用環境の変化、現代のさまざまな労働問題、働きやすい労働環境について、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。 ○仕事と家庭生活の両立、男女格差の解消、安定した雇用などにかかわる課題とその解決の方向性について考察する	○労働関係法が、どのように労働者の権利の保護に寄与しているのか、具体的な事例を取り上げて理解する。 ○労働基準法に定める労働条件の最低基準については、具体的に理解する。 ○現代のさまざまな労働問題や労働環境の改善については、報道や関係の記事などをとおして、より具体的に理解する。

39 国際社会の成り立ち

表現

国際

40 国際連合の役割

表現

環境

国際

テーマ11「国際社会の平和と安全を実現するには？」

41 日本の平和主義と冷戦

表現

環境

国際

42 冷戦後の世界と日本

表現

環境

国際

テーマ12「国際社会における責任ある行動とは何か？」

43 現代の紛争とその影響

表現

環境

国際

44 平和な国際社会に向けて

表現

環境

国際

テーマ13「経済のグローバル化は現代社会にどのような影響をもたらしたか？」

45 貿易のしくみ

表現

環境

国際

46 国際金融のしくみと動向

表現

環境

国際

47 グローバル化と今日の国際経済

表現

環境

国際

○国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解する。

○国際社会において国家間のさまざまな問題が生じる背景と外交や国際法の意義について多面的・多角的に考察する
○集団安全保障としての国際連盟、国際連合の成立とそのしくみ、国際連合における安全保障、国際連合のさまざまな役割と課題について、実際の国際的な事象と関連させながら理解する。
○国連の安全保障に果たす意義と課題について考察する。

○平和主義と日本国憲法第9条、自衛隊と日米安全保障条約、戦後日本の防衛政策について、実際の事象とも関連させながら理解する。
○冷戦後の世界の動き、冷戦終結後の日本の安全保障政策、自衛隊と海外派遣などについて、実際の事象とも関連させながら理解する。
○日本の安全保障政策の変化の背景にある国際関係について考察するとともに、今後の安全保障の課題について追究する。

○現代の紛争とその要因、紛争の解決に向けた取り組み、難民問題について理解する。
○紛争や難民問題の解決に向けて国際機関やNGOなどの取り組みが求められていることを理解する。
○平和の意味、外交を通じた平和の実現の意義、日本の立場と役割について、実際の事象とも関連させながら理解する。
○平和憲法をもつ日本として、国際平和に向けてどのような姿勢で何をなす

○自由貿易と保護貿易、自由貿易の推進に向けた体制、国際収支統計の意味について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。
○リカードの比較生産費説の概要、国際収支統計からわかる経済取引の状況について理解する。
○為替のしくみと外国為替市場、国際通貨制度とその変化、国際金融の動向について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。
○為替相場の変動が貿易取引や金融の動きにも影響を及ぼすことを理解する。
○現在の国際経済秩序と動き、地域統合の歴史と現在、台頭する新興国の動きなどについて、実際の事象とも関連させながら理解する。
○国際経済の秩序や動きは、経済だけでなく政治的な要因も含めて、さまざまな関係のなかで展開していることを理解

○国際法は、国内法と比較しながらその特色について理解する。
○国家間のさまざまな問題や国際法については、具体例をとおして理解する。

○国際連合の安全保障への取り組みについては、実際の国際紛争の例を資料をとおして理解する。
○国際連合の機関の活動が、世界の多くの人々の生活と密接にかかわっている点に気付く。

○日本の安全保障と日米関係については、第二次世界大戦後の国際政治の動きとかわらせて理解する。
○個々の安全保障政策については、当時の報道や記事などを参照して理解する。
○政府の憲法第9条の解釈の変化をとおして自衛隊の役割や位置の変化について理解する。

○実際の紛争の背景と要因や関係する諸国の動向、国際機関の対応などを理解する。
○映像資料や新聞記事などを適切に活用する。

○日本が行っている国際貢献のうち、いくつかを取り上げて実際の活動を知ることによって、国際貢献の意義について理解する。

○輸出入にかかわる政策手段には、関税、輸入数量制限、輸出促進のため補助などがあることを理解する。
○国際収支の項目ごとの取り引き金額の推移からうかがわれることについて考察する。
○為替相場については、日々の経済ニュースによる情報をとおして理解すると同時に、変動の背景や影響についても考察する。
○国際金融の動向については、当時の報道や記事などをとおして理解する。
○国際経済秩序については、国際協調の動きとともに保護主義・一国主義の動きがあることを事例から理解する。
○地域統合のうちFTAやEPAについては、日本の取り組みを例に内容を理解する。

48 国際経済の諸課題

表現

環境

国際

○南北問題の背景と推移、人口・食料問題、格差の是正に向けた取り組みについて、実際の事象とも関連させながら理解する。
○構造的な問題としての南北問題、人口・食料問題の解決には、どのような取り組みが考えられるか考察し議論する。

○南北問題の背景については、植民地の時期の経済関係、その後の国際分業の構造、一次産品の価格などの視点から理解する。
○格差の是正に向けた取り組みについては、SDGs (p.194、195)を取り上げて具体的に理解する。
(学年末考査)

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の段階	・青年期の特徴及び青年期の発達課題としてのアイデンティティの確立，現代社会を生きる課題とキャリア開発，人間関係の形成と社会参画の意義などについて理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から，必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめている。	・青年期の特徴及び青年期の発達課題としてのアイデンティティの確立，現代社会を生きる課題とキャリア開発，人間関係の形成と社会参画の意義などについて，多面的・多角的に考察し，表現している。	・青年期の特徴及び青年期の発達課題としてのアイデンティティの確立，現代社会を生きる課題とキャリア開発，人間関係の形成と社会参画の意義などについて，主体的に追究している。
A (優れている)	・青年期の特徴及び青年期の発達課題としてのアイデンティティの確立，現代社会を生きる課題とキャリア開発，人間関係の形成と社会参画の意義などについて，包括的かつ十分に理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から，必要な情報を包括的に収集し，適切に読み取り，効果的にまとめている。	・学習した知識内容の適切な理解をもとに，青年期の課題や社会参画の意義について多面的・多角的に考察を深めている。 ・思考・判断したことを的確に発表したり説明・論述したりしている。	・青年期の課題や社会参画の意義を主体的に捉え，粘り強く取り組んで深く追究しようとしている。 ・学習を通して新たな認識を得て考えを深めており，そのことを自らふり返ることができている。
B (概ね満足できる)	・青年期の特徴及び青年期の発達課題としてのアイデンティティの確立，現代社会を生きる課題とキャリア開発，人間関係の形成と社会参画の意義などについて，重要なキーワードの多くを理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から，必要な情報の大半を適切に収集し，読み取り，まとめている。	・学習した知識内容の理解をもとに，青年期の課題や社会参画の意義について何らかの適切な視点から考察している。 ・思考・判断したことを発表したり説明・論述したりして形にしている。	・青年期の課題や社会参画の意義を主体的に捉え，一定の見解に到達しようとしている。 ・学習をふり返って，感想などを文章としてまとめている。
C (支援が必要)	・青年期の特徴及び青年期の発達課題としてのアイデンティティの確立，現代社会を生きる課題とキャリア開発，人間関係の形成と社会参画の意義などについて，基本的な理解が不十分である。 ・教科書記載の資料及びその他の資料を適切に活用することができていない。	・学習した知識内容の理解をもとにして考察することができていない。 ・思考・判断したことを発表や文章の形にすることができていない。	・青年期の課題や社会参画の意義を主体的に捉えることができていない。 ・ふり返りの文章を書くことができていない。

評価規準 評価の段階	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・人間存在を，個人としての尊厳，社会的存在，伝統と文化と人間の三つの側面から，カント，J.S.ミル，アレント，ハーバーマス，和辻哲郎，丸山真男の考え方を手がかりに理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から，必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめている。	・人間存在を，個人としての尊厳，社会的存在，伝統と文化と人間の三つの側面から，カント，J.S.ミル，アレント，ハーバーマス，和辻哲郎，丸山真男の考え方を手がかりに，多面的・多角的に考察し，表現している。	・人間存在を，個人としての尊厳，社会的存在，伝統と文化と人間の三つの側面から，カント，J.S.ミル，アレント，ハーバーマス，和辻哲郎，丸山真男の考え方を手がかりに，主体的に追究している。
A (優れている)	・個人としての尊厳，社会的存在，伝統と文化と人間という三つの側面からみた人間存在について，先哲の考え方を手がかりにして，包括的かつ十分に理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から，必要な情報を包括的に収集し，適切に読み取り，効果的にまとめている。	・学習した知識内容の適切な理解をもとに，三つの側面からみた人間存在について多面的・多角的に考察を深めている。 ・思考・判断したことを的確に発表したり説明・論述したりしている。	・人間存在を三つの側面から主体的に捉え，粘り強く取り組んで深く追究しようとしている。 ・学習を通して新たな認識を得て考えを深めており，そのことを自らふり返ることができている。
B (概ね満足できる)	・個人としての尊厳，社会的存在，伝統と文化と人間という三つの側面からみた人間存在について，先哲の考え方を手がかりにして，重要なキーワードの多くを理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から，必要な情報の大半を適切に収集し，読み取り，まとめている。	・学習した知識内容の理解をもとに，三つの側面からみた人間存在について何らかの適切な視点から考察している。 ・思考・判断したことを発表したり説明・論述したりして形にしている。	・人間存在を三つの側面から主体的に捉え，一定の見解に到達しようとしている。 ・学習をふり返って，感想などを文章としてまとめている。
C (支援が必要)	・個人としての尊厳，社会的存在，伝統と文化と人間という三つの側面からみた人間存在について，先哲の考え方を手がかりにした基本的な理解が不十分である。 ・教科書記載の資料及びその他の資料を適切に活用することができていない。	・学習した知識内容の理解をもとにして考察することができていない。 ・思考・判断したことを発表や文章の形にすることができていない。	・人間存在を三つの側面から主体的に捉えることができていない。 ・ふり返りの文章を書くことができない。

評価規準 評価の段階	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 現代の諸課題について判断し選択する際の手がかりとなる功利主義や義務論などの考え方について理解している。 - 教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。	現代の諸課題について判断し選択する際の手がかりとなる功利主義や義務論などの考え方を活用して、生命倫理や環境倫理について多面的・多角的に考察し、表現している。	功利主義や義務論などの考え方を活用して、現代の諸課題について主体的に追究している。
A (優れている)	- 功利主義や義務論などの考え方について、包括的かつ十分に理解している。 - 教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を包括的に収集し、適切に読み取り、効果的にまとめている。	- 功利主義や義務論などの考え方を活用して、生命倫理や環境倫理の諸課題について多面的・多角的に考察を深めている。 - 思考・判断したことを的確に発表したり説明・論述したりしている。	- 功利主義や義務論などの考え方を活用して、現代の諸課題を主体的に捉え、粘り強く取り組んで深く追究しようとしている。 - 学習を通して新たな認識を得て考えを深めており、そのことを自ら振り返ることができている。
B (概ね満足できる)	- 功利主義や義務論などの考え方について、重要なキーワードの多くを理解している。 - 教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報の大半を適切に収集し、読み取り、まとめている。	- 功利主義や義務論などの考え方を活用して、生命倫理や環境倫理の諸課題について何らかの適切な視点から考察している。 - 思考・判断したことを発表したり説明・論述したりして形にしている。	- 功利主義や義務論などの考え方を活用して、現代の諸課題を主体的に捉え、一定の見解に到達しようとしている。 - 学習をふり返って、感想などを文章としてまとめている。
C (支援が必要)	- 功利主義や義務論などの考え方について、基本的な理解が不十分である。 - 教科書記載の資料及びその他の資料を適切に活用することができていない。	- 功利主義や義務論などの考え方を活用して考察することができていない。 - 思考・判断したことを発表や文章の形にすることができていない。	- 功利主義や義務論などの考え方を活用して、現代の諸課題を主体的に捉えることができていない。 - ふり返りの文章を書くことができない。

評価規準 評価の段階	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 公共的な空間における基本的原理である民主主義, 法の支配と立憲主義, 人間の尊厳と平等などの意義について理解している。 - 教科書記載の資料及びその他の資料から, 必要な情報を適切かつ効果的に収集し, 読み取り, まとめている。	公共的な空間における基本的原理である民主主義, 法の支配と立憲主義, 人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。	公共的な空間における基本的原理である, 民主主義, 法の支配と立憲主義, 人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について, 主体的に追究している。
A (優れている)	- 公共的な空間における基本的原理である民主主義, 法の支配と立憲主義, 人間の尊厳と平等などの意義について, 包括的かつ十分に理解している。 - 教科書記載の資料及びその他の資料から, 必要な情報を包括的に収集し, 適切に読み取り, 効果的にまとめている。	- 公共的な空間における基本的原理の意義にかかわる適切な理解をもとに, それらを実現する上での課題について多面的・多角的に考察を深めている。 - 思考・判断したことを的確に発表したり説明・論述したりしている。	- 公共的な空間における基本的原理の意義とそれらを実現する上での課題を主体的に捉え, 粘り強く取り組んで深く追究しようとしている。 - 学習を通して新たな認識を得て考えを深めており, そのことを自ら振り返ることができている。
B (概ね満足できる)	- 公共的な空間における基本的原理である民主主義, 法の支配と立憲主義, 人間の尊厳と平等などの意義について, 重要なキーワードの多くを理解している。 - 教科書記載の資料及びその他の資料から, 必要な情報の大半を適切に収集し, 読み取り, まとめている。	- 公共的な空間における基本的原理の意義にかかわる適切な理解をもとに, それらを実現する上での課題について何らかの適切な視点から考察している。 - 思考・判断したことを発表したり説明・論述したりして形にしている。	- 公共的な空間における基本的原理の意義とそれらを実現する上での課題を主体的に捉え, 一定の見解に到達しようとしている。 - 学習をふり返って, 感想などを文章としてまとめている。
C (支援が必要)	- 公共的な空間における基本的原理である民主主義, 法の支配と立憲主義, 人間の尊厳と平等などの意義について, 基本的な理解が不十分である。 - 教科書記載の資料及びその他の資料を適切に活用することができていない。	- 学習した知識内容の理解をもとにして考察することができていない。 - 思考・判断したことを発表や文章の形にすることができていない。	- 公共的な空間における基本的原理の意義とそれらを実現する上での課題を主体的に捉えることができていない。 - ふり返りの文章を書くことができない。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴 公民科	地理総合	2	第1学年・全コース	松原・大島
教科書	高等学校 新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）	副教材	【予定】新詳地理資料 COMPLETE 2023（Web版） * iPadが来てから対応	

1. 学習の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

「地理総合」は今年度より新しくできた科目です。最低限覚えることはありますが、暗記中心ではなく、考えて表現することを重視します。地球上で見られる地理的事象が「なぜそうなのか?」、「なぜそこにあるのか?」という思考が必要であり、その考えを適切な地図、図表類等を使って説明（表現）することが求められます。日頃から世界や身近な地域の出来事に関心を持ち、常に「はてな?」の気持ちを持ちながら、自分なりの答えを追求できる姿勢を養ってください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各単元において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	①世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への理解。 ②地図や地理情報システムなどを用い、地理的な情報を調べまとめる技能。 ・情報を収集する技能：課題の解決に向けて有用な情報を適切に収集する技能を高める。 ・情報を読み取る技能：社会的事象を位置や空間的な広がりなどを考慮して地図上で捉えることができる。 ・情報をまとめる技能：地理情報を地図にまとめて、用途に適した主題図を作成することができる。
②思考・判断・表現 各単元の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	①地理的事象を多面的・多角的に考察する力。 ②地理的な課題の解決に向けて構想する力。 ③考察、構想したことを地図や図表類を用いて説明したり議論したりする力。
③主体的に学習に取り組む態度 各単元が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	①地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度。 ②日本に居住する個としての自覚。 ③日本の国土に対する愛情と。 ④世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚。

4. 担当者からのメッセージ

ノートを写す事で満足せず、講義内容をメモするようにしましょう。授業は黒板よりもパワーポイント、Google Earth、映像等を使用するため、集中を欠くと次の話題に移ってしまうので注意してください。家庭では学習内容について教科書を用いて復習をするとともに、世界を話題にしたテレビ番組を視聴し、ネットニュースもこまめにチェックしてください。通年で身近な地域・世界の諸地域における課題解決のための探究的活動を行うので、1年を通じて自分が探究したいテーマについて調べておいてください。

1 年生 地理総合 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント・評価基準）	学習活動
1	国際理解と国際協力 生活文化の多様性と国際理解	【知識・技能】 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に，人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり，影響を与えたりして多様性をもつことや，地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に，自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・世界の人々の生活文化について，その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して，主題を設定し，多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察・表現をしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生活文化の多様性と国際理解について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究して解決しようとしている。	環境 国際 講義 演習 定期考査 レポート
1	地図でとらえる現代世界 地図と地理情報システム	【知識・技能】 ・日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に，地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 ・現代世界のさまざまな地理情報について，地図や地理情報システムなどを用いて，その情報を収集し，読み取り，まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・地図や地理情報システムについて，位置や範囲，縮尺などに着目して，目的や用途，内容，適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察・表現をしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・地図や地理情報システムについて，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究して解決しようとしている。	表現 講義 演習 定期考査 レポート
2	結び付きを深める現代世界	【知識・技能】 ・現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に，方位や時差，日本の位置と領域，国内や国家間の結び付きについて理解している。 【思考・判断・表現】 現代世界の地域構成について，位置や範囲などに着目して，主題を設定し，世界的視野から見た日本の位置，国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察・表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 現代世界の地域構成について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究して解決しようとしている。	国際 講義 演習 定期考査 レポート

	地球的課題と国際協力	【知識・技能】 ・世界各地でみられる地球環境問題，資源・エネルギー問題，人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に，地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。 ・世界各地でみられる地球環境問題，資源・エネルギー問題，人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に，地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・世界各地でみられる地球環境問題，資源・エネルギー問題，人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について，地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して，主題を設定し，現状や要因，解決の方向性などを多面的・多角的に考察し，表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】	国際 環境 講義 演習 定期考査 レポート
3	持続可能な地域づくりと私たち 自然環境と防災	【知識・技能】 ・我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に，地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに，自然災害の規模や頻度，地域性を踏まえた備えや対応の重要性を理解している。 ・さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について，その情報を収集し，読み取り，まとめる地理的技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・地域性を踏まえた防災について，自然及び社会的条件との関わり，地域の共通点や差異，持続可能な地域づくりなどに着目して，主題を設定し，自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し，表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自然環境と防災について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究して解決しようとしている。	講義 演習 定期考査 レポート
通年	生活圏の調査と地域の展望 (通年ミッション・探究活動)	【知識・技能】 ・生活圏の調査を基に，地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・生活圏の地理的な課題について，生活圏内や生活圏外との結び付き，地域の成り立ちや変容，持続可能な地域づくりなどに着目して，主題を設定し，課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察・構想し，表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生活圏の調査と地域の展望について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究して解決しようとしている。	国際 表現 調査活動 レポート

* 小単元ごとのルーブリックは別紙参照

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学Ⅰ・A	3+2	1年スタンダードコース	安藤・角谷・嶋崎・高田
教科書	高等学校 数学Ⅰ(数研出版) 高等学校 数学A(数研出版)	副教材	REPEAT数学Ⅰ+A (数研出版)	

1. 学習の目標

数と式、集合と命題、図形と計量、二次関数、データの分析、場合の数と確率、図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習:覚えるべき定義・定理・公式などをまとめる
復習:授業で学習した内容の定着を図る。そのために、教科書傍用傍用問題集に取り組む。
考査対策:傍用問題集を用いて、普段の学習内容の復習、および発展的な内容の問題に取り組む。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。 ・小テスト 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・小テスト 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・探究課題 与えられた課題に対して、数学を用いて表現する力を評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・振り返りシート 自分の学習に対する姿勢を誠実に振り返ることができるかを評価します。 ・週末課題(ノート)等 自分の理解状況に応じて、問題集に取り組み解き直しをするなど、前向きに取り組む姿勢を評価します。

4. 担当者からのメッセージ

よく、「数学なんてできなくても生きていけるわ」という言葉を聞きます。確かに、できなくても生きていけるかもしれませんが、でも、「論理的に考え、それを相手に伝える」という能力を持っていると、もっと生きやすくなります。数学は、その『論理的に考え、それを相手に伝える』能力を付けるのにはもってこいの教科です。自分が得た知識を組み立て、答えを導く、そんな練習の場だと思ってもらえると幸いです。

年間学習計画(数学科バージョン)

学期	学習内容	到達目標					学習活動
	到達レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	
	【数学Ⅰ】						
1	多項式の加法と減法	☐ 単項式や多項式、次数などの用語の意味を理解できる。	☐ 降べきの順などの指数による整式の整理ができる。	☐ 整式の加法と減法の計算ができる。	☐ 特定の文字に着目し、整式の整理や加法、減法の計算ができる。		・小テスト ・課題(ノート)提出 ・課題発表 ・グループ学習 など
	多項式の乗法	☐ 展開の意味を理解できる。	☐ 指数法則、分配法則を理解できる。	☐ 展開の公式を用いて、整式の積を展開できる。	☐ 複雑な式の展開を、工夫して計算しやすくなる。	☐ 3次の展開公式を活用できる。	
	因数分解	☐ 因数分解の意味を理解できる。	☐ 共通因数でくくることができる。 ☐ 中学で学んだ因数分解の公式を利用できる。	☐ たすき掛けを用いて因数分解を行うことができる。	☐ 複雑な式の因数分解を、工夫して行うことができる。	☐ 3次の因数分解の公式を活用できる。	
	実数	☐ 有理数や実数などの用語の意味を理解できる。	☐ さまざまな数の範囲での四則計算について理解できる。	☐ 絶対値を数直線を用いて理解できる。 ☐ 有理数のみの絶対値の値を求めることができる。	☐ 無理数を含む絶対値の値を求めることができる。	☐ 場合分けを用いて絶対値の値を求めることができる。	
	根号を含む式の計算	☐ 平方根の意味を理解し、根号の記号を利用できる。	☐ 根号の性質を理解し、根号を含む式の計算ができる。	☐ 分母の有理化を行うことができる。	☐ 根号を含む数の整数部分小数部分を求めようことができ、さまざまな計算に利用できる。		
	不等式の性質 1次不等式	☐ 和と差に関する不等式の性質が理解できる。	☐ 積と商に関する不等式の性質が理解できる。	☐ 不等式の性質を利用して、1次不等式を解くことができる。	☐ 連立不等式を解くことができる。	☐ 不等式を用いた文章題を解くことができる。	
	絶対値を含む方程式・不等式		☐ 絶対値を含む方程式を解くことができる。	☐ 絶対値を含む不等式を解くことができる。	☐ 場合分けを用いて、絶対値を吹く方程式・不等式を解くことができる。		
	関数とグラフ	☐ 1次関数 $y=ax+b$ (a, b は定数)のグラフをかくことができる。	☐ 2つの数量の関係を式で表現できる。	☐ $y=f(x)$ や $f(a)$ の表記を理解しており、用いることができる。	☐ 1次関数のグラフがかけて、値域、関数の最大値・最小値が求められる。	☐ 座標平面上の点と象限について理解を深めようとする。	
	2次関数のグラフ	☐ 2次関数 $y=ax^2$ の形や軸、頂点について理解している。	☐ $y=ax^2+q$ 、 $y=(x-p)^2$ 、 $y=(x-p)^2+q$ などの表記について、グラフの平行移動とともに理解している。	☐ 平方完成を利用して2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。	☐ グラフの平行移動が、 x 軸方向、 y 軸方向の用語を用いて表現できる。	☐ グラフの平行移動や対象移動の一般公式を積極的に利用しようとする。	
	2次関数の最大・最小	☐ 2次関数が最大値または最小値をもつことを理解している。	☐ $y=ax^2+bx+c$ を $y=a(x-p)^2+q$ の形にして、最大値・最小値を求めることができる。	☐ 2次関数の定義域に制限がある場合に、最大値・最小値が求められる。	☐ 2次関数の定義域に制限があり、関数の式に文字定数が含まれている場合の、最大値・最小値が求められる。	☐ 最大・最小の応用問題に2次関数を利用できる。 ☐ 最大・最小の応用問題において、計算を容易にするような変数設定ができる。	・小テスト ・課題(ノート)提出 ・課題発表 ・グループ学習 など
	2次関数の決定	☐ 放物線の頂点や軸の条件が与えられているとき、基本形 $y=a(x-p)^2+q$ を用いて関数を決定することができる。	☐ 連立3元1次方程式の解き方を理解し、異なる3点を通る放物線を一般形 $y=ax^2+bx+c$ を用いて関数を決定することができる。	☐ 放物線と x 軸との2交点が与えられているとき、分解形 $y=a(x-\alpha)(x-\beta)$ を用いて関数を決定することができる。	☐ 平方完成や平行移動など、既習の内容と複合させた問題を解くことができる(1)。	☐ 平方完成や平行移動など、既習の内容と複合させた問題を解くことができる(2)。	
	2次方程式	☐ 2次方程式の解き方として、因数分解利用、解の公式利用を理解している。	☐ 2次方程式がどんな場合でも解ける。	☐ 2次方程式の解の考察において、判別式 $D=b^2-4ac$ の符号と実数解の関係を理解し、利用することができる。	☐ 2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。	☐ 2つの2次方程式の共通解を求めることができる。	
	2次関数のグラフと x 軸の位置関係	☐ 2次関数のグラフと x 軸の共有点の座標が求められる。	☐ 2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数を求めることができる。	☐ 2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を $D=b^2-4ac$ の符号から考察することができる。	☐ 放物線と直線が接するとき、連立方程式は重解をもつことを理解し、接線の方程式を求めらることができる。	☐ 2次式が常に正(常に負)となる必要十分条件をグラフから理解し、求めることができる。	
	2次不等式	☐ 1次関数のグラフと1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考えようとする。	☐ 2次不等式を解くことができる。	☐ 2次の連立不等式を解くことができる。	☐ 2次不等式を利用する応用問題(文章題)を解くことができる。	☐ 2次関数のグラフが x 軸の正の部分と異なる2点で交わるための必要十分条件を求めることができる。	
							中間考查(80分)
							期末考查(80分)

2	【数学Ⅰ】						・小テスト ・課題(ノート)提出 ・課題発表 ・グループ学習 など 中間考査(80分)
	集合	☐ 集合の用語が理解できる。	☐ 集合を{}を用いて表すことができる。	☐ 記号を用いて集合を表すことができる。	☐ 3つの集合に対して、共通部分や和集合などの要素を求めることができる。		
	命題と条件	☐ 命題や真、偽、条件などの用語を理解できる。	☐ 命題を集合を用いて捉えることができる。	☐ 命題の真、偽の判定ができる。	☐ 必要条件と十分条件の判定ができる。		
	命題と証明	☐ 逆・対偶・裏の用語を理解できる。	☐ 命題から逆・対偶・裏を述べることができ	☐ 対偶を用いて証明できる。	☐ 背理法を用いて証明できる。		
	【数学A】						
	集合の要素の個数	☐ 和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。	☐ ベン図を利用して集合を図示することで、要素の個数を考察することができる。	☐ 和集合、補集合の要素の個数の公式を利用して和集合や補集合の要素の個数を求めることができる。	☐ 和集合、補集合の要素の個数の公式を利用して倍数に関する問題が解ける。	☐ 方程式が必要な問題や応用問題が解ける。	
	場合の数	☐ 樹形図、和の法則、積の法則を理解している。	☐ 樹形図、和の法則、積の法則の利用場面を判断できる。	☐ 樹形図、和の法則、積の法則を用いる基本問題が解ける。	☐ 約数の個数を求めることができる。	☐ 樹形図を用いる応用問題が解ける。	
	順列	☐ 順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できる。	☐ 順列、円順列、重複順列の公式を理解できる。	☐ 場合の数を、順列、円順列、重複順列に帰着させて求めることができる。	☐ 条件が付く順列、円順列を、見方を変えたり別なものに対応させて処理することができる。	☐ 場合分けが必要な問題や応用問題が解ける。	
	組み合わせ	☐ 順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。	☐ 組合せの総数を記号で表し、それを活用できる。	☐ 条件が付く組合せを、処理することができる。組み分けや同じものを含む順列の総数を求めることができる。	☐ 組分けの総数や同じものを含む順列の意味が理解でき、それを求めることができる。	☐ 補集合や一般的な和の法則が必要な問題、応用問題が解ける。	
	事象と確率	☐ 試行の結果を集合と結びつけて、事柄の起こりやすさを数量的にとらえることができる。	☐ 確率の定義が理解でき、数え上げで処理できる問題が解ける。	☐ 順列、組み合わせを用いて確率の基本問題が解ける。	☐ 条件が付く確率を、見方を変えたり別なものに対応させたりして求めることができる。	☐ 確率から個数を求める問題や道順の確率等の応用問題が解ける。	
	確率の基本性質	☐ 積事象、和事象の定義を理解している。	☐ 集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。	☐ 排反事象、余事象の確率を用いる基本問題が解ける。	☐ 一般の和事象の確率の公式が理解でき、正しく用いることができる。	☐ 確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率も求めることができる。	
	独立な試行と確率	☐ 独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。	☐ 独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	☐ 独立試行の確率を、余事象の確率や加法定理などを用いて求めることができる。	☐ 反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	☐ 酔歩、樹形図が必要な問題等の応用問題が解ける。	
	条件付き確率	☐ 条件付き確率の定義が理解できる。	☐ 条件付き確率の基本計算ができる。	☐ 確率の乗法定理を用いて2つの事象がともに起こる確率を求めることができる。	☐ 場合分けが必要な条件付き確率を求めることができる。	☐ 原因の確率等の応用問題が解ける。	
	期待値	☐ 期待値の定義が理解できる。	☐ 期待値の基本計算ができる。	☐ 期待値の考え方をを用いて、結果が不確実な状況下において、どの選択が有利かを判断できる。	☐ 期待値の考え方をを用いて、事象が複雑な状況下において、どの選択が有利かを判断できる。		

2	【数学Ⅰ】					
	三角比	☐ 正弦、余弦、正接が何かわかる。 ☐ 三角比の表から様々な角度の三角比を求めることができる。	☐ 30° 45° 60° の直角三角形の辺の比がわかるとともにその三角比を求めることができる。	☐ 三平方の定理を利用して三角比を求めることができる。 ☐ 三角比と三角比の表を利用して角の大きさや辺の長さを求めることができる。	☐ 問題文を読んで求めるものを図示し、その図の中から直角三角形を探し出し、三角比を利用して必要なものを求めることができる。	
	三角比の相互関係	☐ 三角比の相互関係の式を知っている。	☐ 三角比の相互関係の式を利用して、1つ三角比を与えられたときに残りの2つの三角比を求めることができる。(鋭角の場合)	☐ 三角比の相互関係の式が三平方の定理等から成り立つことを知っている。	☐ 三角比の相互関係の式や三平方の定理を利用して、1つ三角比を与えられたときに残りの2つの三角比を求めることができる。(鋭角の場合)	
	三角比の拡張	☐ 鈍角の有名角の三角比について、座標を用いた三角比の定義で理解することができる。	☐ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の三角比について、そのとりうる値の範囲について理解している。 ☐ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の有名角の三角比を表でまとめることができる。	☐ $180^\circ - \theta$ 、 $90^\circ - \theta$ の三角比の関係式を理解し、鈍角の三角比を三角比の表から読みとることができる。 ☐ 比の値や角の条件に気を付けて、1つ三角比を与えられたときに残りの2つの三角比を求めることができる。	☐ 三角比を含む基本的な等式・不等式を解くことができる。 ☐ 直線の傾きと正接の関係を理解し、x軸とのなす角を求めることができる。	
	正弦定理	☐ 正弦定理の公式を理解している。	☐ どのようなときに正弦定理を利用すればよいか一般的な条件を理解している。	☐ 正弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。	☐ 一般的な条件以外でも正弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。	
	余弦定理	☐ 余弦定理の公式を理解している。	☐ どのようなときに余弦定理を利用すればよいか一般的な条件を理解している。	☐ 余弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。 ☐ 三角形の3辺より鋭角、直角、鈍角の判定をすることができる。	☐ 一般的な条件以外でも余弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。 ☐ 三角形の中線の長さを求めることができる。	
	正弦定理と余弦定理の応用	☐ 問題文から与えられた情報をすべて図示し、求めるものが何かを把握できる。	☐ 求めたいものはどのような定理を利用すれば求めることができるかを考え、実際式をたてて求めることができる。	☐ 三角形の辺と角の決定の様々なパターンを解くことができる。	☐ 三角形の3辺の比と正弦の比の関係について理解しているとともに、三角形の性質から最大角の余弦の値を求めることができる。	
	三角形の面積	☐ 三角形の面積の公式を理解している。	☐ どのようなときに三角形の面積の公式を利用すればよいか一般的な条件を理解し、実際に求めることができる。	☐ 3辺がわかっているときの三角形の面積の求め方を理解し、順をおって求めることができる。	☐ 三角形の内接円の半径や円に内接する四角形に関する問題を解くことができる。	
	空間図形への応用	☐ 問題文から空間図形を描くことができる。	☐ 着目する平面、定理を考え、式をたてて求めることができる。	☐ 様々な立体の断面積や長さを求めることができる。	☐ (正)四面体の体積や立体の断面までおろした垂線の長さを求めることができる。	期末考查 数学Ⅰ (50分) 数学A (50分)

・小テスト
・課題(ノート)提出
・課題発表
・グループ学習 など

3	【数学A】					
	三角形の辺の比	☐ 内分・外分の意味を理解できる。	☐ 内分点・外分点を図示できる。	☐ 角の二等分線の定理を理解できる。	☐ 角の二等分線の定理を利用して線分の長さを求めることができる。	
	三角形の外心、内心、重心	☐ 外心・内心・重心の定義を理解できる。	☐ 外心・重心・内心を図示できる。	☐ 外心・内心・重心の性質を利用して角の大きさや辺の長さを求めることができる。	☐ 内心・外心・重心の性質を利用して、図形の性質を証明することができる。	
	チェバの定理・メネラウスの定理	☐ チェバの定理を用いて、線分の長さの比を求めることができる。	☐ メネラウスの定理を用いて、線分の長さの比を求めることができる。	☐ チェバの定理・メネラウスの定理を理解し、使い分けができる。	☐ チェバの定理・メネラウスの定理を用いて、図形の面積比等を求めることができる。	
	円に内接する四角形	☐ 円に内接する四角形の性質を理解できる。	☐ 円周角の定理や円に内接する四角形の性質を用いて、単純な図形の角の大きさを求めることができる。	☐ 円周角の定理や円に内接する四角形の性質を用いて、複雑に入り組んだ図形の角の大きさを求めること	☐ 円に内接する四角形の性質を用いて、図形の性質を証明することができる。	
	円と直線 2つの円	☐ 接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を理解できる。	☐ 接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を用いて、単純な図形の角の大きさや線分の長さを求めることができる。	☐ 接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を用いて、複雑に入り組んだ図形の角の大きさや線分の長さを求めることができる。	☐ 接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を用いて、図形の性質を証明することができる。	
	作図	☐ 作図の意味を理解できる。	☐ 定規とコンパスを用いて平行な直線や垂直な直線を図示できる。	☐ 図形の性質を用いて様々な長さの線分を図示できる。	☐ 様々な多角形を図示できる。	
	空間図形	☐ 空間における直線や平面の位置関係を理解できる。	☐ 正多面体とは何かを理解し、面や辺や頂点の数を数えることができる。	☐ 空間における直線や平面の位置関係が正しいかどうかを判断できる。	☐ 正多面体をもとにして、様々な多面体の面や辺や頂点の位置を数えたり、体積を求めたりできる。	・小テスト ・課題（ノート）提出 ・課題発表 ・グループ学習 など
	データの整理	☐ 度数分布表やヒストグラムの意味を理解することができる。	☐ データから度数分布表やヒストグラムを作ることができる。	☐ 度数分布表やヒストグラムを読み取り、データを分析し考察することができる。	☐ 度数分布表やヒストグラムから代表値などを求めることができる。	
	データの代表値	☐ データの代表値の意味を理解することができる。	☐ データの代表値を求めることができる。	☐ 度数分布表やヒストグラムから代表値を求めることができる。	☐ 代表値の応用問題を解くことができる。	
	データの散らばりと四分位数	☐ 四分位数や四分位範囲などの意味が理解できる。	☐ 四分位数や四分位範囲などを求めることができる。	☐ 箱ひげ図を理解し、四分位数から箱ひげ図を描くことができる。	☐ 箱ひげ図を比較してデータの散らばりなどを分析し考察することができる。	
	分散と標準偏差	☐ 分散と標準偏差の意味が理解できる。	☐ データの分散と標準偏差を定義から求めることができる。	☐ データの分散と標準偏差を公式から求めることができる。 ☐ 複数のデータを比較して分析し考察することができる。	☐ 仮平均を理解して、データの平均値や標準偏差を求めることができる。	
	2つの変量の間の関係	☐ データの相関関係を理解することができる。	☐ データの相関関係と散布図の関係を理解することができる。	☐ 相関係数を理解し、計算で求めることができる。	☐ 相関係数の値から2つのデータの関係を分析し考察することができる。	
	仮説検定の考え方	☐ 仮説検定の考え方を理解することができる。	☐ 仮説検定の考え方をを用いて事象の判断をすることができる。	☐ 仮説検定と反復試行の確率について考察することができる。		数学 I・A合わせて 中間考査(50分)

3	【数学Ⅱ】 多項式の乗法と因数分解	☐ 3乗の展開公式や を理解し、展開する ことができる。	☐ 3乗の因数分解の 公式を理解し求める ことができる。	☐ 6次式の因数分解 ができる。			・小テスト ・課題(ノート)提出 ・課題発表 ・グループ学習 など 学年末考査(50分)
	二項定理	☐ 二項の式の n 乗の 展開をしたときの係数 を C を用いて計算する ことができる。	☐ 二項定理を利用し て、 $(a+b)^n$ の展開が できる。	☐ 一般項を考えて、指 定された項の係数を 求めることができる。	☐ 多項定理を活用で きる。		
	多項式の割り算	☐ 降べきの順になっ た整式の割り算の筆 算をして商と余りを求 めることができる。	☐ やや複雑な整式の 割り算の筆算をして商 と余りを求めることが できる。	☐ ある文字に着目し て整式の割り算の筆 算ができる。			
	分数式の乗法・除法	☐ 既約分数式と分数 式の意味がわかる。	☐ 分数式の約分がで きる。	☐ 分数式の乗法・除 法の計算ができる。			
	分数式の加法・減法	☐ 分数式の加法・減 法の計算ができる。 (通分が必要でないも の)	☐ 分数式の加法・減 法の計算ができる。 (通分が必要なもの)				
	恒等式	☐ 恒等式と方程式の 違いが見分けることが できる。	☐ 恒等式の性質を利用 して、様々な文字係 数を求めることができ る。	☐ 恒等式の性質を利用 して、様々な文字係 数を求めることができ る。(恒等式が分数式 を含むもの)			
	等式の証明	☐ 左辺または右辺の うち一方を変形して証 明する証明法を理解 し、利用できる。	☐ 左辺、右辺の両方 を変形して証明する 証明法を理解し、利用 できる。	☐ 条件付きの等式の 証明を理解し、利用で きる。			
	不等式の証明	☐ 実数の大小関係の 基本性質を理解す る。	☐ 両辺の差を利用し て不等式の証明がで きる。	☐ 両辺の平方の差を 利用して不等式の証 明ができる。	☐ 実数の平方の性質 を利用して不等式の 証明ができる。		
	相加平均と相乗平均	☐ 相加平均、相乗平 均とそれらの大小関 係が理解できる。	☐ 相加平均と相乗平 均の大小関係を利用 した不等式の証明が できる。				

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学Ⅰ・A	3+2	1年アドバンスコース	土井・安藤・角谷
教科書	高等学校 数学Ⅰ(数研出版) 高等学校 数学A(数研出版)	副教材	4プロセス数学Ⅰ+A (数研出版) チャート式数学Ⅰ+A (数研出版)	

1. 学習の目標

数と式、集合と命題、図形と計量、二次関数、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習:覚えるべき定義・定理・公式などをまとめる
復習:授業で学習した内容の定着を図る。そのために、教科書傍用傍用問題集に取り組む。
考査対策:傍用問題集を用いて、普段の学習内容の復習、および発展的な内容の問題に取り組む。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。 ・小テスト 定義・定理・公式等を使えるかどうかで評価します。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・小テスト 問題の意味を理解し、定義等をどのように使って答えを導くことができたかを評価します。 ・探究課題 与えられた課題に対して、数学を用いて表現する力を評価します。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・振り返りシート 自分の学習に対する姿勢を誠実に振り返ることができるかを評価します。 ・週末課題(ノート)等 自分の理解状況に応じて、問題集に取り組み直しをするなど、前向きに取り組む姿勢を評価します。

4. 担当者からのメッセージ

よく、「数学なんてできなくても生きていけるわ」という言葉を聞きます。確かに、できなくても生きていけるかもしれませんが、でも、「論理的に考え、それを相手に伝える」という能力を持っていると、もっと生きやすくなります。数学は、その『論理的に考え、それを相手に伝える』能力を付けるのにはもってこいの教科です。自分が得た知識を組み立て、答えを導く、そんな練習の場だと思ってもらえると幸いです。

年間学習計画(数学科バージョン)

学期	学習内容	到達目標					学習活動
	到達レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	
	【数学Ⅰ】						
1	多項式の加法と減法	□単項式や多項式、次数などの用語の意味を理解できる。	□降べきの順などの指数による整式の整理ができる。	□整式の加法と減法の計算ができる。	□特定の文字に着目し、整式の整理や加法、減法の計算ができる。		・小テスト ・課題(ノート)提出 ・課題発表 ・グループ学習 など
	多項式の乗法	□展開の意味を理解できる。	□指数法則、分配法則を理解できる。	□展開の公式を用いて、整式の積を展開できる。	□複雑な式の展開を、工夫して計算しやすくなる。	□3次の展開公式を活用できる。	
	因数分解	□因数分解の意味を理解できる。	□共通因数でくることができ。 □中学で学んだ因数分解の公式を利用できる。	□たすき掛けを用いて因数分解を行うことができる。	□複雑な式の因数分解を、工夫して行うことができる。	□3次の因数分解の公式を活用できる。	
	実数	□有理数や実数などの用語の意味を理解できる。	□さまざまな数の範囲での四則計算について理解できる。	□絶対値を数直線を用いて理解できる。 □有理数のみの絶対値の値を求めることができる。	□無理数を含む絶対値の値を求めることができる。	□場合分けを用いて絶対値の値を求めることができる。	
	根号を含む式の計算	□平方根の意味を理解し、根号の記号を利用できる。	□根号の性質を理解し、根号を含む式の計算ができる。	□分母の有理化を行うことができる。	□根号を含む数の整数部分・小数部分を求めようことができ、さまざまな計算に利用できる。		
	不等式の性質 1次不等式	□和と差に関する不等式の性質が理解できる。	□積と商に関する不等式の性質が理解できる。	□不等式の性質を利用して、1次不等式を解くことができる。	□連立不等式を解くことができる。	□不等式を用いた文章題を解くことができる。	
	絶対値を含む方程式・不等式		□絶対値を含む方程式を解くことができる。	□絶対値を含む不等式を解くことができる。	□場合分けを用いて、絶対値を扱う方程式・不等式を解くことができる。		
	関数とグラフ	□1次関数 $y=ax+b$ (a, b は定数)のグラフをかきことができる。	□2つの数量の関係を式で表現できる。	□ $y=f(x)$ や $f(a)$ の表記を理解しており、用いることができる。	□1次関数のグラフをかけて、値域、関数の最大値・最小値が求められる。	□座標平面上の点と象限について理解を深めようとする。	
	2次関数のグラフ	□2次関数 $y=ax^2$ の形や軸、頂点について理解している。	□ $y=ax^2+q$ 、 $y=(x-p)^2$ 、 $y=(x-p)^2+q$ などの表記について、グラフの平行移動とともに理解している。	□平方完成を利用して2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかきことができる。	□グラフの平行移動が、 x 軸方向、 y 軸方向の用語を用いて表現できる。	□グラフの平行移動や対象移動の一般公式を積極的に利用しようとする。	
	2次関数の最大・最小	□2次関数が最大値または最小値をもつことを理解している。	□ $y=ax^2+bx+c$ を $y=a(x-p)^2+q$ の形にして、最大値・最小値を求めることができる。	□2次関数の定義域に制限がある場合に、最大値・最小値が求められる。	□2次関数の定義域に制限があり、関数の式に文字定数が含まれている場合の、最大値・最小値が求められる。	□最大・最小の応用問題に2次関数を利用できる。 □最大・最小の応用問題において、計算を容易にするような変数設定ができる。	
2次関数の決定	□放物線の頂点や軸の条件が与えられているとき、基本形 $y=a(x-p)^2+q$ を用いて関数を決定することができる。	□連立3元1次方程式の解き方を理解し、異なる3点を通る放物線を一般形 $y=ax^2+bx+c$ を用いて関数を決定することができる。	□放物線と x 軸との2交点が与えられているとき、分解形 $y=a(x-\alpha)(x-\beta)$ を用いて関数を決定することができる。	□平方完成や平行移動など、既習の内容と複合させた問題を解くことができる(1)。	□平方完成や平行移動など、既習の内容と複合させた問題を解くことができる(2)。		
2次方程式	□2次方程式の解き方として、因数分解利用、解の公式利用を理解している。	□2次方程式がどんな場合でも解ける。	□2次方程式の解の考察において、判別式 $D=b^2-4ac$ の符号と実数解の関係を理解し、利用することができる。	□2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。	□2つの2次方程式の共通解を求めることができる。		
2次関数のグラフと x 軸の位置関係	□2次関数のグラフと x 軸の共有点の座標が求められる。	□2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数を求めることができる。	□2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を $D=b^2-4ac$ の符号から考察することができる。	□放物線と直線が接するとき、連立方程式は重解をもつことを理解し、接線の方程式を求めらることができる。	□2次式が常に正(常に負)となる必要十分条件をグラフから理解し、求めることができる。		
2次不等式	□1次関数のグラフと1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考えようとする。	□2次不等式を解くことができる。	□2次の連立不等式を解くことができる。	□2次不等式を利用する応用問題(文章題)を解くことができる。	□2次関数のグラフが x 軸の正の部分と異なる2点で交わるための必要十分条件を求めることができる。		
							中間考査(80分)
							・小テスト ・課題(ノート)提出 ・課題発表 ・グループ学習 など 期末考査(80分)

2	【数学Ⅰ】						
	集合	☐ 集合の用語が理解できる。	☐ 集合を{}を用いて表すことができる。	☐ 記号を用いて集合を表すことができる。	☐ 3つの集合に対して、共通部分や和集合などの要素を求めることができる。		
	命題と条件	☐ 命題や真、偽、条件などの用語を理解できる。	☐ 命題を集合を用いて捉えることができる。	☐ 命題の真、偽の判定ができる。	☐ 必要条件と十分条件の判定ができる。		
	命題と証明	☐ 逆・対偶・裏の用語を理解できる。	☐ 命題から逆・対偶・裏を述べることができ	☐ 対偶を用いて証明できる。	☐ 背理法を用いて証明できる。		
	【数学A】						・小テスト ・課題(ノート)提出 ・課題発表 ・グループ学習 など
	集合の要素の個数	☐ 和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。	☐ ベン図を利用して集合を図示することで、要素の個数を考察することができる。	☐ 和集合、補集合の要素の個数の公式を利用して和集合や補集合の要素の個数を求めることができる。	☐ 和集合、補集合の要素の個数の公式を利用して倍数に関する問題が解ける。	☐ 方程式が必要な問題や応用問題が解ける。	
	場合の数	☐ 樹形図、和の法則、積の法則を理解している。	☐ 樹形図、和の法則、積の法則の利用場面を判断できる。	☐ 樹形図、和の法則、積の法則を用いる基本問題が解ける。	☐ 約数の個数を求めることができる。	☐ 樹形図を用いる応用問題が解ける。	
	順列	☐ 順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できる。	☐ 順列、円順列、重複順列の公式を理解できる。	☐ 場合の数を、順列、円順列、重複順列に帰着させて求めることができる。	☐ 条件が付く順列、円順列を、見方を変えたり別なものに対応させて処理することができる。	☐ 場合分けが必要な問題や応用問題が解ける。	
	組み合わせ	☐ 順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。	☐ 組合せの総数を記号で表し、それを活用できる。	☐ 条件が付く組合せを、処理することができる。組み合わせや同じものを含む順列の総数を求めることができる。	☐ 組分けの総数や同じものを含む順列の意味が理解でき、それを求めることができる。	☐ 補集合や一般的な和の法則が必要な問題、応用問題が解ける。	
							中間考査(80分)
	事象と確率	☐ 試行の結果を集合と結びつけて、事柄の起こりやすさを数量的にとらえることができる。	☐ 確率の定義が理解でき、数え上げで処理できる問題が解ける。	☐ 順列、組み合わせを用いて確率の基本問題が解ける。	☐ 条件が付く確率を、見方を変えたり別なものに対応させたりして求めることができる。	☐ 確率から個数を求める問題や道順の確率等の応用問題が解ける。	
	確率の基本性質	☐ 積事象、和事象の定義を理解している。	☐ 集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。	☐ 排反事象、余事象の確率を用いる基本問題が解ける。	☐ 一般の和事象の確率の公式が理解でき、正しく用いることができる。	☐ 確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率も求めることができる。	
	独立な試行と確率	☐ 独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。	☐ 独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	☐ 独立試行の確率を、余事象の確率や加法定理などを用いて求めることができる。	☐ 反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	☐ 酔歩、樹形図が必要な問題等の応用問題が解ける。	・小テスト ・課題(ノート)提出 ・課題発表 ・グループ学習 など
	条件付き確率	☐ 条件付き確率の定義が理解できる。	☐ 条件付き確率の基本計算ができる。	☐ 確率の乗法定理を用いて2つの事象がともに起こる確率を求めることができる。	☐ 場合分けが必要な条件付き確率を求めることができる。	☐ 原因の確率等の応用問題が解ける。	
	期待値	☐ 期待値の定義が理解できる。	☐ 期待値の基本計算ができる。	☐ 期待値の考え方をを用いて、結果が不確実な状況下において、どの選択が有利かを判断できる。	☐ 期待値の考え方をを用いて、事象が複雑な状況下において、どの選択が有利かを判断できる。		

2	【数学Ⅰ】					
	三角比	□正弦、余弦、正接が何かわかる。 □三角比の表から様々な角度の三角比を求めることができる。	□30° 45° 60° の直角三角形の辺の比がわかるとともにその三角比を求めることができる。	□三平方の定理を利用して三角比を求めることができる。 □三角比と三角比の表を利用して角の大きさや辺の長さを求めることができる。	□問題文を読んで求めるものを図示し、その図の中から直角三角形を探し出し、三角比を利用して必要なものを求めることができる。	
	三角比の相互関係	□三角比の相互関係の式を知っている。	□三角比の相互関係の式を利用して、1つ三角比を与えられたときに残りの2つの三角比を求めることができる。(鋭角の場合)	□三角比の相互関係の式が三平方の定理等から成り立つことを知っている。	□三角比の相互関係の式や三平方の定理を利用して、1つ三角比を与えられたときに残りの2つの三角比を求めることができる。(鋭角の場合)	
	三角比の拡張	□鈍角の有名角の三角比について、座標を用いた三角比の定義で理解することができる。	□ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の三角比について、そのとりうる値の範囲について理解している。 □ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の有名角の三角比を表でまとめることができる。	□ $180^\circ - \theta$ 、 $90^\circ - \theta$ の三角比の関係式を理解し、鈍角の三角比を三角比の表から読みとることができる。 □比の値や角の条件に気を付けて、1つ三角比を与えられたときに残りの2つの三角比を求めることができる。	□三角比を含む基本的な等式・不等式を解くことができる。 □直線の傾きと正接の関係を理解し、x軸とのなす角を求めることができる。	
	正弦定理	□正弦定理の公式を理解している。	□どのようなときに正弦定理を利用すればよいか一般的な条件を理解している。	□正弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。	□一般的な条件以外でも正弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。	
	余弦定理	□余弦定理の公式を理解している。	□どのようなときに余弦定理を利用すればよいか一般的な条件を理解している。	□余弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。 □三角形の3辺より鋭角、直角、鈍角の判定をすることができる。	□一般的な条件以外でも余弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。 □三角形の中線の長さを求めることができる。	
	正弦定理と余弦定理の応用	□問題文から与えられた情報をすべて図示し、求めるものが何かを把握できる。	□求めたいものはどのような定理を利用すれば求めることができるかを考え、実際式をたてて求めることができる。	□三角形の辺と角の決定の様々なパターンを解くことができる。	□三角形の3辺の比と正弦の比の関係について理解しているとともに、三角形の性質から最大角の余弦の値を求めることができる。	
	三角形の面積	□三角形の面積の公式を理解している。	□どのようなときに三角形の面積の公式を利用すればよいか一般的な条件を理解し、実際に求めることができる。	□3辺がわかっているときの三角形の面積の求め方を理解し、順をおって求めることができる。	□三角形の内接円の半径や円に内接する四角形に関する問題を解くことができる。	
	空間図形への応用	□問題文から空間図形を描くことができる。	□着目する平面、定理を考え、式をたてて求めることができる。	□様々な立体の断面積や長さを求めることができる。	□(正)四面体の体積や立体の断面までおろした垂線の長さを求めることができる。	

・小テスト
・課題(ノート)提出
・課題発表
・グループ学習 など

期末考査
数学Ⅰ(50分)
数学A(50分)

3	【数学A】					
	三角形の辺の比	☐ 内分・外分の意味を理解できる。	☐ 内分点・外分点を図示できる。	☐ 角の二等分線の定理を理解できる。	☐ 角の二等分線の定理を利用して線分の長さを求めることができる。	
	三角形の外心、内心、重心	☐ 外心・内心・重心の定義を理解できる。	☐ 外心・重心・内心を図示できる。	☐ 外心・内心・重心の性質を利用して角の大きさや辺の長さを求めることができる。	☐ 内心・外心・重心の性質を利用して、図形の性質を証明することができる。	
	チェバの定理・メネラウスの定理	☐ チェバの定理を用いて、線分の長さの比を求めることができる。	☐ メネラウスの定理を用いて、線分の長さの比を求めることができる。	☐ チェバの定理・メネラウスの定理を理解し、使い分けができる。	☐ チェバの定理・メネラウスの定理を用いて、図形の面積比等を求めることができる。	
	円に内接する四角形	☐ 円に内接する四角形の性質を理解できる。	☐ 円周角の定理や円に内接する四角形の性質を用いて、単純な図形の角の大きさを求めることができる。	☐ 円周角の定理や円に内接する四角形の性質を用いて、複雑に入り組んだ図形の角の大きさを求めること	☐ 円に内接する四角形の性質を用いて、図形の性質を証明することができる。	
	円と直線 2つの円	☐ 接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を理解できる。	☐ 接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を用いて、単純な図形の角の大きさや線分の長さを求めることができる。	☐ 接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を用いて、複雑に入り組んだ図形の角の大きさや線分の長さを求めることができる。	☐ 接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を用いて、図形の性質を証明することができる。	
	作図	☐ 作図の意味を理解できる。	☐ 定規とコンパスを用いて平行な直線や垂直な直線を図示できる。	☐ 図形の性質を用いて様々な長さの線分を図示できる。	☐ 様々な多角形を図示できる。	
	空間図形	☐ 空間における直線や平面の位置関係を理解できる。	☐ 正多面体とは何かを理解し、面や辺や頂点の数を数えることができる。	☐ 空間における直線や平面の位置関係が正しいかどうかを判断できる。	☐ 正多面体をもとにして、様々な多面体の面や辺や頂点の位置を数えたり、体積を求めたりできる。	・小テスト ・課題（ノート）提出 ・課題発表 ・グループ学習 など
	データの整理	☐ 度数分布表やヒストグラムの意味を理解することができる。	☐ データから度数分布表やヒストグラムを作ることができる。	☐ 度数分布表やヒストグラムを読み取り、データを分析し考察することができる。	☐ 度数分布表やヒストグラムから代表値などを求めることができる。	
	データの代表値	☐ データの代表値の意味を理解することができる。	☐ データの代表値を求めることができる。	☐ 度数分布表やヒストグラムから代表値を求めることができる。	☐ 代表値の応用問題を解くことができる。	
	データの散らばりと四分位数	☐ 四分位数や四分位範囲などの意味が理解できる。	☐ 四分位数や四分位範囲などを求めることができる。	☐ 箱ひげ図を理解し、四分位数から箱ひげ図を描くことができる。	☐ 箱ひげ図を比較してデータの散らばりなどを分析し考察することができる。	
	分散と標準偏差	☐ 分散と標準偏差の意味が理解できる。	☐ データの分散と標準偏差を定義から求めることができる。	☐ データの分散と標準偏差を公式から求めることができる。 ☐ 複数のデータを比較して分析し考察することができる。	☐ 仮平均を理解して、データの平均値や標準偏差を求めることができる。	
	2つの変量の間の関係	☐ データの相関関係を理解することができる。	☐ データの相関関係と散布図の関係を理解することができる。	☐ 相関係数を理解し、計算で求めることができる。	☐ 相関係数の値から2つのデータの関係を分析し考察することができる。	
	仮説検定の考え方	☐ 仮説検定の考え方を理解することができる。	☐ 仮説検定の考え方をを用いて事象の判断をすることができる。	☐ 仮説検定と反復試行の確率について考察することができる。		
						数学 I ・A合わせて 中間考査(50分)

3	【数学Ⅱ】 多項式の乗法と因数分解	☐ 3乗の展開公式や を理解し、展開するこ とができる。	☐ 3乗の因数分解の 公式を理解し求めるこ とができる。	☐ 6次式の因数分解 ができる。			・小テスト ・課題(ノート)提出 ・課題発表 ・グループ学習 など 学年末考査(50分)
	二項定理	☐ 二項の式の n 乗の 展開をしたときの係数 を O を用いて計算する ことができる。	☐ 二項定理を利用し て、 $(a+b)^n$ の展開が できる。	☐ 一般項を考えて、指 定された項の係数を 求めることができる。	☐ 多項定理を活用で きる。		
	多項式の割り算	☐ 降べきの順になっ た整式の割り算の筆 算をして商と余りを求 めることができる。	☐ やや複雑な整式の 割り算の筆算をして商 と余りを求めることが できる。	☐ ある文字に着目し て整式の割り算の筆 算ができる。			
	分数式の乗法・除法	☐ 既約分数式と分数 式の意味がわかる。	☐ 分数式の約分がで きる。	☐ 分数式の乗法・除 法の計算ができる。			
	分数式の加法・減法	☐ 分数式の加法・減 法の計算ができる。 (通分が必要でないも の)	☐ 分数式の加法・減 法の計算ができる。 (通分が必要なもの)				
	恒等式	☐ 恒等式と方程式の 違いが見分けることが できる。	☐ 恒等式の性質を利用 して、様々な文字係 数を求めることができる。	☐ 恒等式の性質を利用 して、様々な文字係 数を求めることができる。 (恒等式が分数式 を含むもの)			
	等式の証明	☐ 左辺または右辺の うち一方を変形して証 明する証明法を理解 し、利用できる。	☐ 左辺、右辺の両方 を変形して証明する 証明法を理解し、利用 できる。	☐ 条件付きの等式の 証明を理解し、利用で きる。			
	不等式の証明	☐ 実数の大小関係の 基本性質を理解す る。	☐ 両辺の差を利用し て不等式の証明がで きる。	☐ 両辺の平方の差を 利用して不等式の証 明ができる。	☐ 実数の平方の性質 を利用して不等式の 証明ができる。		
	相加平均と相乗平均	☐ 相加平均、相乗平 均とそれらの大小関 係が理解できる。	☐ 相加平均と相乗平 均の大小関係を利用 した不等式の証明が できる。				

令和5年度 北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	化学基礎	2	1年スタンダード、アドバンス	荻原・中野・原田
教科書	啓林館 化学基礎 i版	副教材	インプレス化学基礎ノート(浜島書店)	

1. 学習の目標

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

復習に力を注ぎましょう。まずは、授業のノート(プリント)を見直し、理解することに努めましょう。その上で、覚えておかなければならない基礎的な事項は必ず覚えてください。さらに、教科書および問題集の練習問題を解きながら、基礎的な学力を身につけましょう。考査問題には、問題集からも出題します。また将来、大学受験を考えている人は、応用問題にもチャレンジしましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト 学習した内容が正確に理解されているか。 答えを導き出す過程が記されているか。 ・観察・実験の技能 実験器具等を正しく操作しているか。 ・ノート、課題、レポート等の提出状況 授業内容および課せられた課題を適切にまとめているか。
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・レポート内容 結果のみでなく、考察がされているか。 ・観察・実験の表現、発表等 予想や考察内容が具体的に表現されているか。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・授業への出席状況、受講態度 授業に集中し、意欲的に取り組んでいるか。 自分で工夫してノート等への記入を行っているか。 ・ノート、課題、レポート等の提出状況 提出期限を守って、提出されているか。

4. 担当者からのメッセージ

- 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	序章 化学と人間生活 第1部 物質の構成 第1章 物質の構成 第1節 純物質と混合物 第2節 物質とその成分 第3節 粒子の熱運動と物質の三態	・化学という科目の特徴を理解する。 ・物質は純物質と混合物とに分類できることを理解する。 ・混合物から純物質を得る分離・精製には種々の方法があり、実験を通してその操作法を体得する。 ・物質を構成する元素の種類によって、単体や化合物が存在し、同じ元素からなる単体には性質が異なる同素体をもつものがあることも理解する。成分元素の検出方法も学ぶ。 ・物質には固体・液体・気体の3つの状態があることを確認し、相互の変化には熱の出入りによる分子の熱運動がもとになっていることを理解する。 ・熱運動が停止する温度を0とする、絶対温度の定義も学ぶ。	プリント提出 実験: 赤ワインの蒸留・レポート作成 小テスト  ノート・問題集提出	【 】 【 】 【 】 【 】
	第2章 物質の構成粒子 第1節 原子の構造と電子配置 第2節 イオン 第3節 元素の周期表	・原子の構造を理解し、その構成粒子の違いにより同位体が存在することを理解する。 ・原子の電子配置とそれに基づく価電子の意味を理解する。また、化学結合の基礎となる希ガスの電子配置を理解する。 ・イオンは希ガスと同じ電子配置をとって安定化していることを理解するとともに、多原子イオンの種類や化学式の表しかたを学ぶ。 ・原子のイオン化エネルギーと電子親和力を理解する。 ・元素の性質から考え出された周期律と、それを一覧にした周期表の特徴を理解する。とくに、価電子の数やイオン化エネルギーの周期的変化に注目する。 ・周期表上での元素の分類や同族元素の名称、周期表上における元素の陽性や陰性の傾向について学ぶ。	プリント提出 小テスト ノート・問題集提出 期末考査 環境調査(水質及び大気) レポート作成	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
2	第3章 化学結合 第1節 イオン結合 第2節 共有結合	・原子や原子団がどのようにして電気を帯びるか、さらにその粒子がどのような力によって結合するかを学ぶ。 ・イオンからなる物質の種類や表し方・特徴的な性質を理解する。 ・原子が価電子を共有するという方法で結びつくしくみを理解する。 ・物質を表す方法として、分子式をはじめ電子式や構造式を学ぶ。	小テスト プリント提出	【 】 【 】 【 】

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
		- 電子を引きつける強さの尺度ともいえる電気陰性度を理解し、共有結合では、電気陰性度の違いにより電子のかたよりを生じ、電気的に正の部分と負の部分ができることを学ぶ。 - 分子の形によって極性が打ち消される分子と打ち消されない分子とが存在することを学ぶ。共有結合の特別な場合である配位結合について学ぶ。 - 無数の原子が共有結合により結合した物質である共有結合結晶について、性質が大きく異なることを学ぶ。	小テスト	【 】
	第3節 金属結合	金属の原子どうしでは、イオン結合や共有結合とは異なったしくみで結合することを理解する。	ノート・問題集提出中間考査	【 】
	第4節 物質の分類と融点	化学結合と物質の性質の関係を理解する。	演示実験:液体窒素 レポート作成	【 】
	第2部 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第1節 原子量・分子量・式量	原子量という概念によって異なる元素の原子の質量が比較しやすくなることを理解する。それをもとに、分子量や式量の定義を学ぶ		【 】
	第2節 物質量(mol)	- 微小な粒子を扱うには、ある一定の量を考えて、それを単位として扱うほうが便利であることを理解し、物質量の概念を学ぶ。 - 物質量は化学全体にわたって必須の概念なので、演習などを通して数値的な扱い方を体得する。また、気体については物質量と体積も重要な関係があるのであわせて理解する。 - 溶液の濃度について、パーセント濃度やモル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。	小テスト プリント提出 ノート・問題集提出期末考査	【 】 【 】 【 】
3	第3節 化学反応式と化学変化	化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことを学び、それをもとにして化学反応式が表す量的関係が把握できるようになる。	小テスト	【 】
	第2章 酸と塩基 第1節 酸と塩基	- 酸や塩基の定義について、アレキニウスとブレンステッドの2つの方法を学び、酸・塩基の反応には水素イオンが寄与していることを理解する。 - 酸や塩基の価数、電離度による強弱の分類法を理解する。	プリント提出 環	【 】 【 】
	第2節 水の電離とpH	水は一部が電離していること、水溶液の酸性や塩基性の強さをpHにより表すことができることを理解する。	国	【 】
	第3節 酸・塩基の中和と塩	酸と塩基が中和するときのしくみや量的関係を理解する。	ノート・問題集提出学年末考査	【 】

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	生物基礎	2	1年全コース	濱名 中路
教科書	高等学校 生物基礎(数研出版)	副教材	新課程 リードLightノート 生物基礎(数研出版)	

1. 学習の目標

生物や生命現象について関心を高め、理解を深めて、自分自身と自分自身がおかれている環境について主体的に考える態度を養うとともに、生物学上の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な生命観を身に付けることができるようになる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

まずは「何故だろう」という疑問から始まります。そして自分なりにその答を予想して調べ、正解に近づいていきましょう。毎回の授業を大切に、授業内で疑問に思ったことがあれば、自分で調べたり、教科担当や友人に聞いたりして解決につなげましょう。基礎力は、考査直前だけではなく、毎回の授業後に問題演習に取り組むことで身に付きます。また予習、復習として教科書を音読することも効果的です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。	定期考査、レポート内容等 観察・実験の技能・表現
②思考・判断・表現 習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	定期考査、レポート内容(考察)等
③主体的に学習に取り組む態度 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	授業への出席状況、受講態度、ノート・課題・レポート等の提出状況

4. 担当者からのメッセージ

「生物」は決して暗記科目ではありません。細胞と細胞のつながり、体内と体外、同じ種類の生きもの、違う種類の生きもの、地球規模の環境など、大小さまざまな関係によってつくられている大きな世界の物語を理解する学問です。その一つ一つを一緒に学んでいきましょう。

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動	自己評価
1	序章 生物基礎を学ぶにあたって 探究活動のプロセス	☐ 生物基礎で学習する内容の概要を把握している ☐ 学習を進めるうえで重要となる探究のプロセスについて理解している	顕微鏡観察の基本操作 マイクロメーターによる測定	【 】 【 】 【 】
	第1章 生物の特徴			
	1. 生物の多様性と共通性 生物の多様性、生物の多様性・共通性とその由来、生物の共通性としての細胞	☐ 生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解している ☐ 生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解している	さまざまな細胞の観察 原核細胞の観察 中間考査	【 】 【 】
	2. エネルギーと代謝 生命活動とエネルギー、代謝とエネルギー、ATP	☐ 生命活動にはエネルギーが必要であることを理解している ☐ 細胞の生命活動のエネルギーはATPの形で供給されることを理解している	1日の消費エネルギーの算出	【 】 【 】
	3. 呼吸と光合成 呼吸、光合成、エネルギーの流れ、酵素	☐ 呼吸や光合成によってATPが供給されることを理解している ☐ 生命活動は化学反応であり、酵素によって、生体内で必要な化学反応が進行することを理解して	カタラーゼのはたらき	【 】 【 】
	第2章 遺伝子とそのはたらき			
	1. 遺伝情報とDNA 遺伝情報を含む物質－DNA、DNAの構造	☐ DNAは2本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解している ☐ 遺伝情報はDNAの塩基配列にあることを理解している	DNAの抽出 DNA模型の作製	【 】 【 】
	2. 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の複製、遺伝情報の分配	☐ DNAが、半保存的に複製されることを理解している ☐ 細胞周期の進行に伴って、DNAが正確に複製され、2つの細胞に分配されることを理解してい	体細胞分裂の観察 ノート提出 期末考査	【 】 【 】
2	3. 遺伝情報の発現 遺伝情報とタンパク質、タンパク質の合成、分化した細胞の遺伝子発現、遺伝情報と遺伝子、ゲノム	☐ タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解している ☐ 個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なること	DNA模型を使った転写と翻訳の理解	【 】 【 】

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動	自己評価
2	第3章 ヒトの体内環境の維持			
	1. 体内での情報伝達と調節 体内での情報伝達、神経系による情報の伝達と調節、内分泌系による情報の伝達と調節	☐ 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解している ☐ 自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解している	運動によるからだの状態の変化 ノート提出 中間考査	【 】 【 】 【 】
	2. 体内環境の維持のしくみ 体内環境の維持、血糖濃度調節のしくみ、血液の循環	☐ ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解している		【 】
	3. 免疫のはたらき からだを守るしくみ-免疫、自然免疫、適応免疫、免疫と病気	☐ からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解している ☐ 免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることについて理解している	食作用の観察 期末考査	【 】 【 】
3	第4章 生物の多様性と生態系			
	1. 植生と遷移 植生、植生の遷移	☐ 植生の成りたちや相観について理解している ☐ 植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解している	身近な植生の調査	【 】 【 】
	2. 植生の分布とバイオーム バイオームの成立、世界のバイオーム、日本のバイオーム	☐ 世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解している ☐ 気候条件によっては、遷移の結果として森林のほかに草原や荒原にもなることを理解している	身近な照葉樹と夏緑樹の葉の比較	【 】 【 】
	3. 生態系と生物の多様性 生態系の成り立ち、生態系と種多様性、生物どうしのつながり	☐ 生態系の成りたちを理解している ☐ 生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解している	土壌中の生物の調査	【 】 【 】
	4. 生態系のバランスと保全 生態系のバランス、人間の活動と生態系、生態系の保全	☐ 生態系がもつ復元力について理解している ☐ 人間活動が生態系に及ぼす影響について理解している ☐ 生態系の保全の重要性について理解している	簡易水質調査キットを用いた水質調査 大規模な開発について考えよう 学年末考査	【 】 【 】 【 】

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	北稜探究 I	1	1年生全員	青柳・小林・佐野 柴田・本岡・中田 荻原・坂田・中野 濱名・福井
教科書	なし	副教材	第一学習社 小論文チャレンジノート	

1. 学習の目標

・課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけ、探究の意義や価値を理解する。
 ・実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
 ・探究に主体的・協働的に取り組むと共に、互いの良さを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

定期考査は実施せず、毎時間ごとの参加と課題提出が基本となるので、欠席をせず、時間内に課題を仕上げるように取り組む。スピーチや発表では、話すこと、聞くことに積極的に取り組む。グループワークでは、様々な価値観を持つ他者と交流し、意見を交換しながらまとめていくようにする。出された課題は丁寧に取り組み、必ず期限内に提出する。

3. 評価

次の各観点に基づき学期ごとに文章により評価します。

観点	評価のポイント
①知識・技能 習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・スピーチ、発表 ・小論文模試 ・その他成果物
②思考力・判断力・表現力 知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・スピーチ、発表 ・小論文模試 ・その他成果物
③主体的に学習に取り組む態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・グループワークの様子 ・課題の提出状況 ・レポート、自己評価等

4. 担当者からのメッセージ

北稜高校は長年「国際教育」「環境教育」「表現活動」を教育の特色として力を入れてきました。この「北稜探究 I」では、おもに環境教育に重点を置き、自ら課題を見つけ、新たな知識を得、それを表現する力を養います。1年間、楽しく学びましょう。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	自己評価
1	オリエンテーション	・シラバス説明(北稜探究の目標、学習内容、評価等について) ・授業担当者自己紹介		
	読書紹介	・新書を読み、新たに知ったことをまとめて未読の人に伝える。	・グループ内発表 表現	
	他者の好きなモノ紹介	・他者にインタビューして、「好き！」に関する楽しいエピソードを数多く聞き出し、それを魅力的な発表に仕上げる。 ・他者から楽しいエピソードを聞き出す工夫やそれを魅力的に伝えるためのポイントを学ぶ。	・インタビュー ・スライド選定 ・スピーチ 表現	
	小論文の作成	・身近な実社会に潜む諸課題(とくに環境問題)への問題意識を持ち、それに対する自らの考えを小論文の形で表現する。 ・小論文の書き方の基本や社会問題に対する調査の仕方を学び、文章で自分の考えを伝える表現力を磨く。	・現状や課題、解決策を調べる ・小論文作成 環境 表現	
2	環境問題のつながりを考える	・SDGsと環境問題について学び、環境問題を学ぶ意義を把握する。 ・環境問題どうしのつながりを考え、それをスライドにして他者にプレゼンテーションを行う。 ・自然がお互いに関連した複雑なシステムであることを知り、それを具体例を挙げて論理的に説明する力を付ける。 ・他者を引きつけるプレゼンテーションにするためのポイントについて学ぶ。	・発表原稿作成 ・スライド作成 ・プレゼンテーション 環境 表現	
	問を立てる	・写真や図、グラフなどを見て思い浮かぶ素朴な疑問、「はて」「なぜ」を見つけ、自分なりの問をつくる練習をする。 ・自らの問に対する答を見つけるためにはどうすればよいかを考え、実践してみる。 ・2年生での探究活動の基礎となる「問さがし」の導入として、主体的に取り組めるようにする。	・班活動 ・発表原稿作成 ・スライド作成 ・プレゼンテーション 環境 表現	
3	環境動画の制作	・環境問題の中から関心のあるテーマを見つけ、それを他者に伝える動画を制作する。 ・テーマの見つけ方や動画の構成、魅力的な伝え方など、この1年間の探究で学んだことを1本の動画に集約する。 ・各クラスの優秀作品は、全体の発表会で上映される。	・環境動画の作成(1~2分) ・優秀作品発表会での上映 環境 表現	

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	体育	3	1年全コース	保健体育科全員
教科書		副教材		

1. 学習の目標

(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・集散の行動を素早く行い、規律ある態度で授業に取り組む。
- ・授業の開始と終了時に挨拶をし、返事は大きな声ではっきりと行う。
- ・正しい言葉遣いを用いて、節度ある態度で授業に臨む。
- ・授業に出席し、種目に積極的に参加したり仲間と協力しながら技能の向上を目指す。
- ・日常的に運動に親しみ、安全に授業参加できるよう準備する。
- ・各種目を通して、健康、運動、体力について相互理解し、心身の発育・発達に関連づけてまとめる。(レポート等)

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識及び技能 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	種目による技能テスト(記録、フォーム等) 種目におけるレポート作成(競技の特性・特徴・ポイント・ルール等)
②思考力, 判断力, 表現力等 各教科目の知識・技能を活用し、課題を解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	種目によるレポート作成 (種目・競技と健康・体力、心身の発育・発達との関係について等) 学習カード(ロイロノート)
③学びに向かう力, 人間性等 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への積極的参加(集散・挨拶等) 他者との協力 授業準備・片付け

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	体づくり運動	○健康・安全に留意し、他者を尊重しながら主体的に運動に取り組むことができる。 ○自己や仲間の課題に応じた運動を継続することができる。 ○心と体は互いに影響し変化することに気づくことができる。 ○体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うことができる。 ○体づくり運動の行い方や体力の構成要素を理解し、実生活に取り入れながら実践することができる。	参加状況・準備片付け(③) レポート提出(②③) 表現力テスト(②) 表現
	選択種目① 「球技」1種目 ネット型 (テニス)(卓球)(バレーボール) ゴール型 (ハンドボール)(ソフトボール) (バスケットボール)	○球技の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってチームプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○ルールやマナーを守り、フェアプレーの精神で試合ができる。 ○練習やゲームから、自己やチームの課題を見出すことができる。 ○チームや個人の能力に見合った目標を設定し、練習計画が立案できる。 ○基本的な技術や戦術を、ゲームの状況に応じて適切に選択し十分生かすことができる。 ○球技の特性や学習の進め方、個人的技術やや集団的技術の構造について理解し、チームメイト等に説明することができる。	参加状況・準備片付け(③) レポート提出(①②) 技能テスト(①)
	体づくり運動	○健康・安全に留意し、他者を尊重しながら主体的に運動に取り組むことができる。 ○自己や仲間の課題に応じた運動を継続することができる。 ○心と体は互いに影響し変化することに気づくことができる。 ○体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うことができる。 ○体づくり運動の行い方や体力の構成要素を理解し、実生活に取り入れながら実践することができる。	レポート提出(①②) 表現力テスト(①) 表現
2	2 体育理論	 スポーツの意義や歴史、文化的特徴や、現代スポーツを取り巻くさまざまな問題について説明できる	参加状況(③) 環境 技能テスト(①) 表現 レポート提出(①②), 国際
	選択種目② 「球技」1種目 ネット型 (テニス)(卓球)(バレーボール) ゴール型 (ハンドボール)(ソフトボール) (バスケットボール)	○球技の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってチームプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○ルールやマナーを守り、フェアプレーの精神で試合ができる。 ○練習やゲームから、自己やチームの課題を見出すことができる。 ○チームや個人の能力に見合った目標を設定し、練習計画が立案できる。 ○基本的な技術や戦術を、ゲームの状況に応じて適切に選択し十分生かすことができる。 ○球技の特性や学習の進め方、個人的技術やや集団的技術の構造について理解し、チームメイト等に説明することができる。	参加状況・準備片付け(③) レポート提出(①②) 技能テスト(①)
	選択種目③ 陸上競技・ダンス・剣道 1種目 陸上競技 (短距離走)	○健康・安全に対する高い意識で学習に取り組んでいる。 ○陸上競技に強い関心を持ち、記録の向上を目指して積極的に学習できる。 ○個のレベルに応じた課題を設定し、その改善のための練習方法を実践できる。 ○より速く走るために、自らの能力に応じた技能を習得している。 ○種目の特性や技術の構造をふまえ、課題解決のための練習方法や学習の進め方を理解している。	参加状況・準備片付け(③) レポート提出(①②) 技能テスト(①)

2	(跳躍選択)	○健康・安全に対する高い意識で学習に取り組んでいる。 ○陸上競技に強い関心を持ち、記録の向上を目指して積極的に学習できる。 ○個のレベルに応じた課題を設定し、その改善のための練習方法を実践できる。 ○より遠くへ(高く)跳ぶために、自らの能力に応じた技能を習得している。 ○種目の特性や技術の構造をふまえ、課題解決のための練習方法や学習の進め方を理解している。	参加状況・準備片付け(③)	レポート提出(①②)	技能テスト(①)
	ダンスⅡ (現代的な音楽を使つての創作)	○踊ることに興味を持ち、自らすすんで学習することができる。 ○グループ活動への積極的な参加、協力ができる。 ○基本的な動きをもとに工夫した動きを考えだし、修正しながらまとめることができる。 ○ダイナミックに、リズミカルに踊ることができる。 ○基本的な動き(運動の要素)を理解できる。 ○現代的なリズムの音楽にのったダンス(ジャズダンス・ヒップホップなど)の特性を理解している。	参加状況・準備片付け(③)	レポート提出(①②)	技能テスト(①)
	剣道	○気剣体一致の踏み込み足打突ができ、勢いのある体、足捌き、冴えのある打突ができる。 ○防具の正しい着装が、素早くできる。 ○禁止事項や勝敗の判断などに関する規定を理解し、審判ができる。 ○日本の運動文化としての特性を尊重し、礼法、正しい着装、技の理合などが理解できる。	参加状況・準備片付け(③)	レポート提出(①②)	技能テスト(①)
3	陸上競技 (長距離走)	○記録を向上させる楽しみや喜びを体得している。 ○自らの能力に応じた目標や課題を設定できる。 ○設定された長距離をより速く走ることができる。 ○長距離走の特性や技術を理解している。	参加状況・準備片付け(③)	レポート提出(①②)	技能テスト(①)
	選択種目④ 「球技」1種目 (バドミントン) (サッカーボール)	○球技の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってチームプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○ルールやマナーを守り、フェアプレーの精神で試合ができる。 ○練習やゲームから、自己やチームの課題を見出すことができる。 ○チームや個人の能力に見合った目標を設定し、練習計画が立案できる。 ○基本的な技術や戦術を、ゲームの状況に応じて適切に選択し十分生かすことができる。 ○球技の特性や学習の進め方、個人的技術や集団的技術の構造について理解し、チームメイト等に説明することができる。	参加状況・準備片付け(③)	レポート提出(①②)	技能テスト(①)

表現

表現

体育ルーブリック 授業

	A	B	C	D
学びに向かう力, 人間性等	運動に意欲を持って取り組み、種目の楽しさや喜びを味わい、自分で課題を見つけ改善しようとするなど授業に主体的に取り組むことができる。	種目の楽しさや喜びを味わいながら授業に取り組むことができる。	声かけがあれば各種目の練習に取り組むことができる。	各種目の練習や試合に参加することができていない。
学びに向かう力, 人間性等	仲間と協力して授業に必要な道具の準備や片付けに積極的に取り組むことができる。	促されれば授業に必要な道具の準備や片付けに取り組むことができる。	促されれば必要な道具の準備や片付けに取り組もうとするが、途中でやめてしまう。	授業に必要な道具の準備や片付けを行うことができない。
思考・判断・表現	周囲の状況を見て、何をすべきかを確に判断し、自己の役割を責任を持って果たすことができる。	自己に与えられた役割を果たすことができる。	自ら役割を果たそうとはしないが、促されれば行動することができる。	役割を与えられても取り組もうとしない。
技能	各種目の特性を理解し、体力、技術が高まり記録や技能が向上している。また、与えられた課題を高いレベルで行うことができる。	与えられた課題を一定のレベルで行うことができる。	与えられた課題を一定のレベルで行うことができるが、不十分な点がある。	体力・技術が一定のレベルに到達しておらず課題を一定のレベルでできていない。
技能	各種目の特性、必要な動作を理解し、正しいフォームが身についている。	正しいフォームが身についているが、少し不十分な点がある。	ある一定フォームを身につけることができているが、不十分な点が見られる。	正しいフォームを身につけることができていない。
知識	各種目の発祥に関わる歴史や特性、特徴、ルールなどを理解している。	各種目のルール・必要な知識を理解している。	各種目のルールを理解しようとしているが、わかっていない部分がある。	各種目のルールを理解できていない。

体育ルーブリック レポート

思考・判断・表現	各種目の特徴・特性・技術等をわかりやすく図にまとめ、レポートに記入することができる。	各種目について一部不十分な点があるが図をレポートに記入することができる。	図をレポートにかけているが不十分な点が多い。	レポートを提出することができない。
知識	各種目の発祥に関わる歴史や特性、必要な技術を理解し、その高め方について理解し、レポートにまとめていることができる。	各種目の発祥に関わる歴史等についてレポートに書くことができる。	レポートに必要な内容を書くことができているが、空白が多い。	レポートを提出することができない。

保健ルーブリック 授業

	A	B	C	D
主体的に学習に取り組む態度	学習テーマについて理解を深める為に予習に取り組み、発言・発表を積極的におこなうことができる。	質問に対し、発言・発表を行うことができる。	発言・発表を行うことができるが、関係ないことや確に答えることができない。	授業に集中できていないことが多く、発言・発表ができない。
主体的に学習に取り組む態度	ノートをわかりやすくまとめたり、課題に対して積極的に取り組むことができる。	ノートを書き写すことができる。課題を提出することができる。	ノートを書き写すことや課題に取り組むことができるが、不十分な点が多い。	ノートを書いていない。また、課題に取り組むことができない。

保健ルーブリック グループ学習

思考・判断・表現	学習テーマをよく理解し、積極的にグループ内の役割分担を遂行している。発表の内容をよく理解し、わかりやすくデータを整理し、聞く側の反応を予測しながらテーマを伝えられている。	発表の内容が聞く側に伝わるように工夫をしている。グループ内の役割を行うことができる。	発表を行うことができているが、不十分な点やわかりにくいことがある。グループ内で与えられた役割に取り組むが不十分な点がある。	与えられた課題に対して、発表することができない。グループ内で協力をできておらず与えられた役割を果たせていない。
----------	---	--	---	---

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	保健	1	1年全コース	保健体育科全員
教科書	現代高等保健体育(大修館)	副教材		

1. 学習の目標

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・各授業前(前日)までに授業範囲の教科書を読み、ポイントや疑問点について事前に調べておく。
- ・授業後、授業の内容についてノート等と教科書を比べたり、自分の考えをまとめたりする。
- ・調べ学習と発表は、発表分野の課題に関連する事象をより深く調べ、資料を準備する等してわかりやすく説明できるようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識及び技能 各教科目において習得すべき知識・技能を身に付けているかを評価します。	課題発表 実習による技能テスト 各学期ごとの定期テスト
②思考力, 判断力, 表現力等 各教科目の知識・技能を活用し、課題を解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	課題発表 グループディスカッション等 各学期ごとの定期テスト
③学びに向かう力, 人間性等 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への積極的参加(集散・挨拶・発表・発言等) 課題提出・ノート(プリント等)提出 実習の取り組み

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	2 単元 安全な社会生活 ・交通事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成 ・安全における安全 ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法	○事故の実態と被害の実態について説明できる。○事故の発生には人的要因と環境的要因が関連していることについて例をあげて説明できる。 ○安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。 ○すべての人たちの安全確保のために必要な環境整備について例をあげて説明できる。 ○交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。 ○交通事故における責任を3つに分けて説明できる ○応急手当の意義について説明できる。 ○傷病者を発見したとき、確認・観察するポイントをあげることができる。 ○日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 ○実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。 ○心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。 ○実際に、心肺蘇生法をおこなうことができる。	実習(①②③) 課題提出(①②③) グループ活動(②③) 期末考査(①②) 表現
2	2 現代社会と健康 ・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病のその予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復 ・運動と健康 ・食事と健康 ・休養、睡眠と健康 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症、エイズとその予防	○さまざま健康の考え方について例をあげて説明できる。 ○健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。 ○わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる。 ○わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる。 ○生活習慣病を正しく理解し、その一次予防と二次予防が実践できる生活習慣を学習し、がんの原因や予防について説明できる。特に、適切な食事・運動・休養を自らの生活で実践できる方法を考えたり、健康に悪影響を及ぼす要因である喫煙、飲酒、薬物乱用の影響や医薬品の適切な使用方法、また性病やエイズを含む感染症の正しい理解と予防・対応等について整理して理解し、生活に役立てることができる。	発表(①②③) 課題提出(①②③) 国際 表現 環境
3	3 現代社会と健康 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防 ・精神疾患からの回復 ・健康と意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり	○精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。 ○現代社会における精神保健の課題をあげることができる。 ○心と体には密接に関わり合っているため、刺激や緊張を与えること起るでストレスのしくみと原因について学び、自分に合った適切な対処方法を模索し実践できるよう考えることができる。 ○自らの習慣や行動は選択することで決められているということを理解し、健康に結びつく意志決定や行動選択ができるようになる。 ○健康を守るために必要な社会環境を整備するために、住民と地域や会社、自治体、国が一体となって個人を支援する仕組みを理解する。	課題提出(①②④) 期末考査(②④) 表現

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	音楽Ⅰ	2	1年・全コース（選択）	田中
教科書	ON! 1（音楽之友社）	副教材	改訂 音楽通論（教育芸術社）	

1. 学習の目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を持つことを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

授業中で学ぶ表現を恥ずかしがらずに実践すること。学んだ表現に工夫を加え、さらに独創的な表現を追求すること。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・実技試験やグループ発表の内容 ・鑑賞プリントの内容 ・創作作品の内容
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・実技試験やグループ発表の内容 ・鑑賞プリントの内容 ・創作作品の内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・振り返りシートの内容 ・グループ発表及び個人での課題発表に取り組む姿勢 ・提出物の提出状況と内容

4. 担当者からのメッセージ

自信をもって発表ができるよう、練習時間を大切にしましょう。より魅力的な表現を目指して、何事にも積極的に、根気よく取り組みましょう。

年 間 学 習 計 画

学期	学習項目・内容の要点	学習のねらい（ポイント）	学習活動（観点）	自己評価
1	・ オリエンテーション	○幅広い音楽の世界に興味・関心を持つ。	振り返りシート 表現 実技試験	【 】 【 】
	・ 言葉と音楽（歌唱）	○基本的な発声法や表現を習得する。 ○詩の内容を感じ取り、その曲に合った表現を工夫する。 ○鑑賞を通して気づいたことを自分の演奏の工夫につなげる。		
	・ クラシックギター	○基本的な奏法を習得する。	振り返りシート 実技試験	【 】
	・ 楽典	○楽譜について理解する（音価・音名・譜表・拍子等）。	ワークシート	【 】
2	・ 鑑賞	○独奏曲や管弦楽曲に興味・関心を持つ。 ○音楽を形づくっている要素を知覚し、よさや美しさを味わって聴く。	鑑賞プリント 国際 表現	【 】
	・ 合唱	○合唱の特徴を生かした表現を工夫する。	振り返りシート 表現	【 】
	・ キーボード	○基本的な奏法を習得する。	振り返りシート 実技試験	【 】
	・ 世界の歌	○曲種に合った発声法や表現ができる。	実技試験 国際	【 】
	・ 器楽アンサンブル	○リコーダーまたはキーボードの特徴を生かしたアンサンブルをする。リズムアンサンブルにも取り組む。	振り返りシート 発表	【 】
	・ 鑑賞	○オペラや合唱曲に興味・関心を持つ。 ○音楽を形づくっている要素を知覚し、よさや美しさを味わって聴く。	鑑賞プリント 表現	【 】
3	・ 鑑賞	○和楽器に興味・関心を持つ。 ○伝統音楽の特徴を理解してよさや美しさを味わって聴く。	鑑賞プリント 表現	【 】
	・ 創作	○基礎的な創作を通じて、独創的な表現を身につける。 ○意図を持って表現に取り組む。	創作作品の内容 表現	【 】
	・ 歌曲	○曲種に合った発声法や表現ができる。	振り返りシート 発表	【 】

	A	B	C
①知識・技能	・曲想と音楽の構造について理解を深めている。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を十分に身につけ、歌唱や器楽、創作で表している。	・曲想と音楽の構造についていくつか理解している。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱や器楽、創作で表している。	・曲想と音楽の構造についての理解が不十分である。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱や器楽、創作で表すことが不十分である。
②思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながらどのように音楽をつくるか考えを深め、表現意図をもっている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながらどのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもつことが不十分である。
③主体的に学習に取り組む態度	学習に粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとする姿勢が常にあり、主体的・協働的に取り組んでいる。	学習に粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとする姿勢が一定程度あり、主体的・協働的に取り組んでいる。	学習に粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとする姿勢がなく、主体的・協働的な取り組みが不十分である。

鑑賞

	A	B	C
①知識・技能	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解を深めている。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについていくつか理解している。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて一定程度理解している。	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについての理解が不十分である。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについての理解が不十分である。
②思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて深く考え、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことが不十分である。
③主体的に学習に取り組む態度	①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり②音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに強く関心を持ち、主体的・協働的に取り組んでいる。	①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり②音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに一定程度関心を持ち、主体的・協働的に取り組んでいる。	①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり②音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に取り組むことが不十分である。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	工芸 I	2	1年・全コース（選択）	山脇
教科書	『工芸 I』（日本文教出版）		副教材	『美術資料』（秀学社）

1. 学習の目標

身近な生活の視点や社会的な視点に立って造形への理解を深めたり、表現の意図と創意工夫・工芸の働きなどについて考え、主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組むことができる。工芸の伝統と文化に親しみ、感性を高め、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考查対策等について）

発想の能力を高めるには、自然界にある形や色彩・素材に関心を持ったり、身近なものを観察したりすることが役立ちます。表現の技能を向上させるには、用途に合った工具や道具の使用に慣れ、よりよいものを目指して真摯に制作に取り組むことが大切です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに基準に従って①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	課題の制作方法を理解し、意図に応じて材料や用具を活用したり、手順や技法などを吟味するなど、創意工夫して制作しているかどうか。 （作品・ワークシート 等）
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	心豊かに発想し、用途と美しさの調和を考えて制作の構想を練っているかどうか。 （アイデアスケッチ・実物大の下図・平面表現 等） 鑑賞において作品のよさや美しさ、作者の心情や意図・表現の工夫などが感じ取れているかどうか。 （ワークシート・レポートの内容 等）
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	題材の内容に関心を持ち、積極的に発想して制作の構想を練ったり制作方法を理解したりし、すすんで工芸の作品づくりに取り組んでいるかどうか。 （作品・アイデアスケッチ・ワークシート等の提出状況） （受講・制作の態度） （授業への出席状況 等）

4. 担当者からのメッセージ

ものづくりに対する理解を深め、自ら作り出すことの楽しさや喜びを存分に味わってください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント）	学習活動	自己評価
1	○オリエンテーション ・人間と道具 ○工芸と自然の関わり	□「道具の始まり」について知り、 工芸学習の意義を理解する。 □自然界における規則性と美しさの 関係を知り、制作に生かす工夫に ついて考える。 □1学期の後半で行うろうけつ染めの 実物大の下図を作成する。 □海や森などの構成要素から造形の おもしろさを発見し構成を工夫して 丁寧に表現する。	・中学で作ったものや使った道具 を思い出し、それについての 説明をプリントにまとめる。 (自己紹介アンケート) 環境 ・アイデアスケッチを考える。	【 】 【 】
	○Ⅰ 創作図案 平面表現		・平面作品（実物大の下図）を 作成し提出する。	【 】
	○Ⅱ ろうけつ染め ハンカチを染める	□制作した平面表現をもとにしてろう けつによる染色の方法を学ぶ。 □染色の分野に興味を持ち、防染技 法の一つであるろうけつ染めに積 極的に取り組む。 □ろうけつ染めの特長を理解し、作品 に上手に取り入れることができる。 □染料による色彩の特徴について理 解するとともに、表現された作品の 個性の違いを味わう。	・実物大の下図をハンカチに転 写して蠟描きし、染色を行うこ とにより、爽やかな色のオリジ ナリティあふれた表現のろう けつ染めの作品を制作する。 表現 ・染色の伝統的な技法について 学び、理解を深める。 国際	【 】 【 】
2	○オープンでつくる植木鉢 Ⅰ 発想と構想 ・アイデアスケッチ①発想	□身近な生活や自己の思いなどから 日常で使える小さな植木鉢を 制作する。 □制作方法を理解して、意図に応じて 材料や用具を活用したり、手順や 技法などを計画することができる。 □作ろうとする作品の形・大きさ・色に ついての検討を充分に行い、下図 を作成する。 □計画や構想に従って粘土の成形を行 い植木鉢の形を完成させる。 □粘土の性質を理解して、温度調節と 時間を守った焼成ができる。	・自然に還る工芸素材と生活環境の 改善を探る。 環境 ・アイデアスケッチ（発想）提出	【 】
	・アイデアスケッチ②構想 ・粘土の成形 ・作品の焼成		・アイデアスケッチ（構想）提出 ①成形 ②乾燥 ③焼成 ④絵付け ・植木鉢の作品の提出	【 】 【 】
	○植木鉢の台座 ・電動糸鋸・ドリルの使用	□電動工具を使用して安全なベニヤ 板の裁断や、丁寧な研磨や接着 の作業を行うことができる。 □植木鉢に合わせて直線的や曲線的に デザインした台座を美しく塗装 することができる。 □自他問わず作品の良いと思われる 点について、自分なりの考えがま とめられること。	表現 ・台座を伴った作品の提出 ・鑑賞会ワークシートの提出	【 】 【 】
3	○レザークラフト ・葉の制作 ・カードケースの制作	□皮革についての基本的な知識や 革工芸特有の技法を学ぶ。 □使う人の好みや長く使用しても飽き の来ないデザインについて考える。 □工具の使用技術を習得し、しっかり した表面加工ができる。 □レザーの材質感を深く味わうと共に 表面の形状を変化させることに よって独自の装飾を作り出す。 □加工した部分をひきたてる染色方 法や仕上げのかがる作業が丁寧 にできる。 □生活環境や社会における工芸の これからを考え、提案する。	・アイデアスケッチとトレースの 提出 表現 ・葉の作品の提出 ・カードケースの提出 ・ワークシートの提出 環境	【 】 【 】 【 】
	○まとめ ・これからの工芸			【 】

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	工芸 I	2	1年全コース選択	奥村
教科書	工芸 I (日本文教出版)	副教材	美術資料 (秀学社)	

1. 学習の目標

工芸の幅広い創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習・復習は必要ありませんが、使う材料の性質や表現技法について考え、使う人の気持ちに寄り添う表現をする努力をしてください。考えたように表現できない場合は積極的に担当に助言を求めてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の内容
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の内容 ・作品についての発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の提出状況と内容 ・課題に取り組む姿勢

4. 担当者からのメッセージ

様々な工芸に関する展覧会や展示会などに足を運んだり、日常生活のなかにあるデザインされたものについて考察したり、自分はどのような素材で表現をし、使う人の気持ちや利便性を考えるかなど、デザインに興味・関心を持って授業に取り組んでください。

年間学習計画(工芸Ⅰ)

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動(観点)	自己評価
1	・オリエンテーション・鑑賞	□工芸の素材による表現方法の違いや工芸の伝統と文化について考えている。	ワークシート 環境	【 】
	・平面構成とろうけつ染め	□身近な布製品をいろいろな角度から調べ、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	ワークシート(アイデアスケッチ含)	【 】
		□ろうけつ染めの技法を理解し、制作の構想を練ってハンカチとして制作している。	課題作品 表現	【 】
	・鑑賞	□他の生徒の作品を鑑賞し、その良さや技法の工夫等を感じ取っている。 □自分の作品の意図や工夫、苦心点などをレポートにまとめ、発表している。	ワークシート	【 】
2	・オープン陶土の植木鉢	□オープン陶土の持つ性質を理解し表現に生かしている。	ワークシート(アイデアスケッチ含)	【 】
		□オープン陶土の色から表現を工夫し植木鉢として制作している。	課題作品 表現	【 】
		□各自の作品を鑑賞しあい、その良さや工夫をレポートにまとめている。	ワークシート	【 】
	・鑑賞会	□自分の作品の意図や工夫、苦心点などを発表している。		
3	・レザークラフト	□レザークラフトの伝統、文化について学び、普段使用しているレザー製品について考察している。	ワークシート(アイデアスケッチ含)	【 】
		□レザークラフトの制作を通して、その性質や技術を学び、表現方法を創意工夫して制作している。	課題作品 表現	【 】
		□工芸Ⅰの学習を振り返って反省とまとめを行い、これからの工芸とのかかわりについて考察している。	ワークシート	【 】
	・鑑賞・1年間のまとめ			

芸術(工芸Ⅰ)ルーブリック			
	A	B	C
①知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解をしている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解することが難しい。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫することが難しい。
②思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を理解している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を理解することが難しい。
③主体的に学習に取り組む態度	主体的に工芸の幅広い創造活動に粘り強く取り組もうとしている。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組もうとしている。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組むことが難しい。

芸術（工芸 I）ルーブリック

	A	B	C	D
①知識 及び技能	材料や工具の使用についての知識や加工技術を習得し、表現しようとする作品について高いレベルで実現できる。	材料や工具使用についての知識や技術を習得し、作品表現できる。	材料や工具使用についての知識や技術の習得が少し不十分であり、作品としての質や量が不足している。	材料や工具使用についての知識や技術の習得ができていない。課題に応じた作品が表現できない。

	A	B	C	D
②思考・ 判断・表現	課題の内容を深く理解し、素材に応じて制作方法を工夫しながら独自の表現ができる。	課題の内容を理解し、指示に従って作業を進め、作品を完成できる。	課題の内容の理解や、表現可能な発想力や構想力に不十分なところがあり、作品を完成できない。	課題の内容を理解できず、作品表現ができない。
（鑑賞）	作品の良いと思われる点について多角的に鑑賞でき、豊富な言葉を用いて独自の考えがまとめられる。	作品の良いと思われる点について鑑賞でき、考えがまとめられる。	作品の鑑賞に際して感じたことや考えをまとめ表現するのに不十分な点がある。	作品の良さを味わうことができず、感じたことや自分なりの考えも表現できない。

	A	B	C	D
③主体的 に学習に 取り組む 態度	課題について強い関心を持ち、主体的・意欲的に課題を進めていくことができる。提出物は工夫して丁寧に仕上げ、締切日に提出できる。	課題に関心を持ち、計画通りに課題を進めていくことができる。提出物は締切日に完成提出できる。	課題に向かう意欲が少し不足している。提出物は締切日を過ぎて提出したり、完成度が低く丁寧さに欠ける。	課題に取り組もうとする意欲が感じられず、締切日を過ぎてても作品が提出されない。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	美術 I	2	1年全コース選択	奥村
教科書	美術1(光村図書)	副教材		

1. 学習の目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習・復習は必要ありませんが、考えたことを表現する努力をしてください。考えたように表現できない場合は積極的に担当に助言を求めてください。また、美術系への進学を希望している人は、できるだけ早めに相談に来てください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の内容
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の内容 ・作品についての発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・提出物(作品・ワークシート)の提出状況と内容 ・課題に取り組む姿勢

4. 担当者からのメッセージ

様々な美術に関する展覧会などに足を運んで、表現にもいろいろあることを知ったり、日常生活の中にあるデザインされたものについて考察したり、自分はどうのような表現をしたいと考えるなど、美術やデザインに興味・関心を持って授業に取り組んでください。

年間学習計画(美術Ⅰ)

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動(観点)	自己評価
1	・オリエンテーション	□ 現代美術から表現の楽しさを感じとり、美術への興味・関心を持っている。	ワークシート	【 】
	色と光の表現、色と光の表現	□ 色の仕組みや日本独特の色彩感覚を理解している。	課題作品 表現	【 】
	・シンボルマークのデザイン	□ マークデザインの役割や目的を考え、目的に合った相応しいものを考え制作している。	課題作品(ワークシート含)	【 】
	・様々な技法によるデザイン表現	□ 作品全体の視覚的なメッセージを考え、絵の具、針金、スチレンボードなど様々な素材による表現を試みて、ポスターを制作している。	ワークシート	【 】
2	・鑑賞	□ 他の生徒の作品を鑑賞し、その良さや技法の工夫等を感じ取っている。		
	・鑑賞・世界の中の日本の美術	□ 世界の美術の変遷や概要を眺め、日本の美術の特徴や良さについて考えている。	ワークシート 国際	【 】
	・アクリル絵の具で校内風景を描く	□ 撮った写真を資料として構図を考え、風景画を制作している。	課題作品 表現	【 】
	・孔版画	□ 前景、中景、背景を意識して風景画を効果的に表現している。	課題作品(ワークシート含) 環境	【 】
3	・現代美術・ボックスアート(箱の中に異空間を表現する)	□ 演劇の舞台デザインのような感覚で、制作のイメージに合った空間になるように工夫している。	課題作品 表現	【 】
		□ 遠近法や重なり等を活用して奥行きや広がり表現している。動画撮影としても工夫している。	ワークシート、動画	【 】
		□ コーネル等のボックスアートを手がけている作家の作品を鑑賞し、その良さや技法の工夫等を感じ取っている。	ワークシート	【 】
	・鑑賞・1年間のまとめ	□ 1年間を思い返し、自分の感覚に合った表現方法や作家作品について考えをまとめている。	ワークシート	【 】

芸術(美術Ⅰ)ルーブリック			
	A	B	C
①知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解をしている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解することが難しい。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫することが難しい。
②思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を理解している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を理解することが難しい。
③主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に粘り強く取り組もうとしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組むことが難しい。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語コミュニケーション I	4	1年スタンダードクラス	松井・並木・脇田・中西・今井・西川
教科書	LANDMARK Fit English Communication I	副教材	特になし	

1. 学習の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

具体的な活動・領域は以下の通り。

(1) 聞くこと

日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

日常的・社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。

(3) 話すこと[やり取り]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

(4) 話すこと[発表]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり、読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができる。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。

①予習では、担当教員の指示を的確に聞き、指示に忠実に計画的に行うようにしましょう。評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」がこれに当てはまりますので、自ら学ぶ意思を持って取り組みましょう。

②授業では、「知識・技能」を身につけ、「思考・判断・表現」を英語という言語を用いて行えるように取り組みましょう。授業で学んだこと、理解したことについて、積極的に英語で表現しようとする力が力を伸ばすことにつながります。

③復習については授業の振り返りをその都度行い、記録するようにして自身の言語活動や授業の理解度を見直しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに基準に従って

評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・聞く、読む、話す、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけている。	読む・聞く能力を身につけているか（小テストや定期考査） 基本的な語彙や文法事項を身につけているか（小テストや定期考査）
②思考・判断・表現 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な問題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話者や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり、伝え合ったりしている。	話す・書く能力を身につけているか（プレゼンやスピーキングテスト、ライティング課題） 相手の話に同調し、尊重しながらも自分自身の意見を伝えられるか（ディベート課題等）
③主体的に学習に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	自身の英語活動について主体的に学び、記録に残すことができるか（振り返り等） 自身の英語5領域の能力向上に向けて自発的に学習を進められているか（スタサブ等） ワークシート等の提出状況

4. 担当者からのメッセージ

中学校では苦手だったかもしれない英語を高校生になって好き・得意になれるように積極的に前向きに学習に励みましょう。英語を様々な角度から学び、生徒の皆さんの英語力が自分自身の武器になるように我々は一生懸命授業を行います。また研修旅行に向けて、継続的に国際交流を行っていきます。精一杯、学習に励んでください。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト					
終了時目標	英語で身近な事例に関する話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の考えを簡単に伝えることができる				
第1学年	○フレーズ単位で話すことができる	○提示された基本文をアレンジして自分自身の意見や興味・関心のあることについて話すことができる	○読み手に伝わるように正確な語調で30字程度のまとまった文を書くことができる	○日常的に使用される英単語を使って簡単な表現を聞いて理解することができる	○英語コミュニケーションIの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる
	○英語らしい発音をすることができる		○論理表現Iで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる	○簡単な表現であれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる	○文構造を意識しながら英文を読むことができる
	ポフォーマンティスト	ポフォーマンティスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト

		1	2	3	4	5	6
		文法事項 (論理と表現Iと共通)	Lesson1 Enjoy Your Journey! Lesson2 Curry Travels around the World	Lesson3 School Uniforms Lesson4 Eco-Tour on Yakushima	Lesson5 Bailey the Facility Dog Lesson6 Communication without Words	Lesson7 Dear Woorld:Bana's War	Lesson8 The Best Education to Everyone, Everywhere
知識・技能	Reading	基本的な英文を読み、意味が理解できる。	文章を読み取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を読み取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を読み取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を読み取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を読み取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。
	Listening		文章を聞き取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を聞き取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を聞き取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を聞き取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を聞き取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。
	Interaction	基本的な英文を使って、相手との会話に使える表現を理解している。	賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。	賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。	賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。	賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。	賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。
	Presentation	基本的な英文を理解し、相手に自分の考えを伝える方法を理解している。	情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。	情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。	情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。	情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。	情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。
	Writing	基本的な英文を理解し、表現するための語順を理解している。	自分の意見や主張を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解し、工夫して詳しく書く技能を身に付けている。	自分の意見や主張を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解し、工夫して詳しく書く技能を身に付けている。	自分の意見や主張を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解し、工夫して詳しく書く技能を身に付けている。	自分の意見や主張を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解し、工夫して詳しく書く技能を身に付けている。	自分の意見や主張を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解し、工夫して詳しく書く技能を身に付けている。
思考・判断・表現	Reading	基本的な英文を読んで、内容を理解し、それを自分の言葉で伝える力を身につけている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。
	Listening		自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話文を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話文を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話文を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話文を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話文を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えている。
	Interaction	基本的な英文を理解し、それらを使って相手とやりとりしている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらうように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらうように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらうように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらうように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらうように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。
	Presentation	基本的な英文を理解し、それらを使って聞き手にわかりやすく内容を伝ええている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらうように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝ええている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらうように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝ええている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらうように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝ええている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらうように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝ええている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらうように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝ええている。
	Writing	基本的な英文を理解し、それらを使って内容を論理的に書いて伝ええている。	読み手によく理解してもらうように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝ええている。	読み手によく理解してもらうように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝ええている。	読み手によく理解してもらうように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝ええている。	読み手によく理解してもらうように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝ええている。	読み手によく理解してもらうように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝ええている。
主体的に学習に取り組む態度	Reading	基本的な英文を読んで、内容を理解し、それを自分の言葉で伝える力を身につけている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。
	Listening		自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話文を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話文を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話文を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話文を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話文を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。
	Interaction	基本的な英文を理解し、それらを使って相手とやりとりをしようとしている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらうように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらうように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらうように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらうように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらうように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。
	Presentation	基本的な英文を理解し、それらを使って聞き手にわかりやすく内容を伝えようとしている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらうように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらうように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらうように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらうように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらうように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。
	Writing	基本的な英文を理解し、それらを使って内容を論理的に書いて伝えようとしている。	読み手によく理解してもらうように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。	読み手によく理解してもらうように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。	読み手によく理解してもらうように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。	読み手によく理解してもらうように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。	読み手によく理解してもらうように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。
自己評価							

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語コミュニケーション I	4	1年アドバンスクラス	松井・中西・ウッドワース
教科書	LANDMARK English Communication I	副教材	特になし	

1. 学習の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

具体的な活動・領域は以下の通り。

(1) 聞くこと

日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

日常的・社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。

(3) 話すこと[やり取り]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことに基づき、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

(4) 話すこと[発表]

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり、読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができる

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。

①予習では、担当教員の指示を的確に聞き、指示に忠実に計画的に行うようにしましょう。評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」がこれに当てはまりますので、自ら学ぶ意思を持って取り組みましょう。

②授業では、「知識・技能」を身につけ、「思考・判断・表現」を英語という言語を用いて行えるように取り組みましょう。授業で学んだこと、理解したことについて、積極的に英語で表現しようとするのが力を伸ばすことにつながります。

③復習については授業の振り返りをその都度行い、記録するようにして自身の言語活動や授業の理解度を見直しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・聞く、読む、話す、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけている。	読む・聞く能力を身につけているか(小テストや定期考査) 基本的な語彙や文法事項を身につけているか(小テストや定期考査)
②思考・判断・表現 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な問題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話者や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり、伝え合ったりしている	話す・書く能力を身につけているか(プレゼンやスピーキングテスト、ライティング課題) 相手の話に同調し、尊重しながらも自分自身の意見を伝えられるか(ディベート課題等)
③主体的に学習に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	自身の英語活動について主体的に学び、記録に残すことができているか(振り返り等) 自身の英語5領域の能力向上に向けて自発的に学習を進められているか(スタサブ等) ワークシート等の提出状況

4. 担当者からのメッセージ

中学校では苦手だったかもしれない英語を高校生になって好き・得意になれるように積極的に前向きに学習に励みましょう。英語を様々な角度から学び、生徒の皆さんの英語力が自分自身の武器になるように我々は一生懸命授業を行います。また研修旅行に向けて、継続的に国際交流を行っていきます。精一杯、学習に励んでください。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト				
終了時目標	英語で身近な事柄に関する話し手や書き手の意図を確に理解するとともに、自分の考えを簡単に伝えることができる			
第1学年	○フレーズ単位で話すことができる	○提示された基本文をアレンジして自分自身の意見や興味・関心のあることについて話すことができる	○読み手に伝わるように正確な語順で30字程度のまとまった文を書くことができる	○日常的に使用される英単語を使って簡単な表現を書いて理解することができる
	○英語らしい発音をすることができる	○論理表現Ⅰで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる	○簡単な表現であれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる	○英語コミュニケーションⅠの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる
	ペーパーテスト	ペーパーテスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト

		1	2	3	4	5	6
		文法事項 (論理と表現Ⅰと共通)	Lesson1 Enjoy Your Journey! Lesson2 Curry Travels around the World	Lesson3 School Uniforms Lesson4 Eco-Tour on Yakushima	Lesson5 Bailey the Facility Dog Lesson6 Communication without Words	Lesson7 Dear World:Bana's War	Lesson8 The Best Education to Everyone, Everywhere
知識・技能	Reading	基本的な英文を読み、意味が理解できる。	文章を読み取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を読み取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を読み取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を読み取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を読み取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。
	Listening		文章を聞き取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を聞き取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を聞き取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を聞き取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	文章を聞き取るために必要となる語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。
	Interaction	基本的な英文を使って、相手との会話に使える表現を理解している。	賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。	賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。	賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。	賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。	賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。
	Presentation	基本的な英文を理解し、相手に自分の考えを伝える方法を理解している。	情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。	情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。	情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。	情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。	情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。
	Writing	基本的な英文を理解し、表現するための語順を理解している。	自分の意見や主張を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解し、工夫して詳しく書く技能を身に付けている。	自分の意見や主張を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解し、工夫して詳しく書く技能を身に付けている。	自分の意見や主張を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解し、工夫して詳しく書く技能を身に付けている。	自分の意見や主張を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解し、工夫して詳しく書く技能を身に付けている。	自分の意見や主張を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解し、工夫して詳しく書く技能を身に付けている。
思考・判断・表現	Reading	基本的な英文を読んで、内容に自分の考えを身につけている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。
	Listening		自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えている。
	Interaction	基本的な英文を理解し、それらを使って相手とやりとりしている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。
	Presentation	基本的な英文を理解し、それらを使って聞き手にわかりやすく内容を伝ええている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝ええている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝ええている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝ええている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝ええている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝ええている。
	Writing	基本的な英文を理解し、それらを使って内容を論理的に書いて伝ええている。	読み手によく理解してもらえるように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝ええている。	読み手によく理解してもらえるように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝ええている。	読み手によく理解してもらえるように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝ええている。	読み手によく理解してもらえるように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝ええている。	読み手によく理解してもらえるように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝ええている。
主体的に学習に取り組む態度	Reading	基本的な英文を読んで、内容を理解し、それを自分の言葉で伝える力を身につけようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。
	Listening		自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。	自分(たち)の考えを発表するために、事例についての対話を聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。
	Interaction	基本的な英文を理解し、それらを使って相手とやりとりしようとしている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。	自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、話題について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。
	Presentation	基本的な英文を理解し、それらを使って聞き手にわかりやすく内容を伝えようとしている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。
	Writing	基本的な英文を理解し、それらを使って内容を論理的に書いて伝えようとしている。	読み手によく理解してもらえるように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。	読み手によく理解してもらえるように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。	読み手によく理解してもらえるように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。	読み手によく理解してもらえるように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。	読み手によく理解してもらえるように、テーマについて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。
自己評価							

令和5年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	論理表現 I	2	1年スタンダードクラス	脇田・並木・今井・中西・西川・松井
教科書	My Way Logic and Expression I	副教材		

1. 学習の目標

言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- 「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。
- ①予習では、担当教員の指示を的確に聞き、指示に忠実に計画的に行うようにしましょう。評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」がこれに当てはまりますので、自ら学ぶ意思を持って取り組みましょう。
- ②授業では、「知識・技能」を身につけ、「思考・判断・表現」を英語という言語を用いて行えるように取り組みましょう。授業で学んだこと、理解したことについて、積極的に英語で表現しようとするのが力を伸ばすことにつながります。
- ③復習については授業の振り返りをその都度行い、記録するようにして自身の言語活動や授業の理解度を見直しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	単元で学習した語彙や表現、文法事項などについて理解しているか 学習した「知識」を基に、情報や考え、気持ちなどを論理的に話して伝える技能を身に付けているか
②思考・判断・表現 知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている。	提示された基本文をアレンジして自分自身の意見や興味・関心のあることについて話すことができる 簡単な表現であれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる 日常的に使用される英単語を使った簡単な表現を聞いて理解することができる 読み手に伝わるように正確な語順で30字程度のまとまった文を書くことができる
③主体的に学習に取り組む態度 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。	筋道を立てて伝え合おうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。 筋道を立てて詳しく話そうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。 筋道を立てて詳しく書こうとしている。また、自分の書いたものを振り返り、改善点を見出している。

4. 担当者からのメッセージ

論理・表現 I では英語の基礎となる文法を中心に学習していきます。文法は英語の4技能(読む・書く・聞く・話す)の根幹となる力です。文法を学ぶと、相手に伝わるような英語を話したり書いたりすることができます。また難しい文章を読む際にも、文法力があれば読み解くヒントを得ることができます。文法は授業を聞いただけでは身に付きません。復習をすることが大切になります。スタサブを活用したり、授業で解いた文法の練習問題をもう一度、自分の力で解きなおしてみるなど復習に力を入れてください。みなさんの英語の4技能を伸ばす基礎となるのが論理・表現 I です。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト					
	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと	聞くこと	読むこと
卒業時 目標	英語でさまざまな状況において話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を適切に伝えることができる				
第 3 学 年	○対話の展開を意識して、やり取りすることができる	○適切な表現を用いて、即興で自分自身の考えや興味・関心のあることについて話すことができる	○文構造を意識して、読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる ○論理表現Ⅱで学習する基本的文法事項をほぼ正しく使い、書くことができる	○英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる ○簡単な表現であれば、ある程度まとまった英語を聞いて概要を理解することができる	○少々難しい単語や表現があっても、前後関係から文を理解して全体の概要を理解することができる
	ハフォーマット	ハフォーマット	定期検査 ライティングテスト	定期検査 リスニングテスト	定期検査 リーディングテスト
	英語で日常的なさまざまな状況における話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を簡単に伝えることができる				
第 2 学 年	○文単位で話すことができる ○英語らしいリズムと単語の発音がおおむねできる	○事前に準備をしていれば、自分の意見や興味・関心のあることについて話すことができる	○読み手に伝わるように理由や根拠を示した50字程度のまとまった文を書くことができる ○論理表現Ⅱで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる	○ゆっくりであれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる ○ゆっくり繰り返して話されれば英語を聞いて概要を理解することができる	○英語コミュニケーションⅡの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる
	ハフォーマット	ハフォーマット	定期検査 ライティングテスト	定期検査 リスニングテスト	定期検査 リーディングテスト
	英語で身近な事柄に関する話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の考えを簡単に伝えることができる				
第 1 学 年	○フレーズ単位で話すことができる ○英語らしい発音をすることができる	○提示された基本文をアレンジして自分自身の意見や興味・関心のあることについて話すことができる	○読み手に伝わるように正確な語順で30字程度のまとまった文を書くことができる ○論理表現Ⅰで学習する基本的文法事項をおおむね正しく使い、書くことができる ○文構造を意識しながら英文を書くことができる	○日常的に使用される英単語を使った簡単な表現を聞いて理解することができる ○簡単な表現であれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる	○英語コミュニケーションⅠの教科書レベルの英文を、辞書などを使いながらも、自力で文章の概要を理解することができる ○文構造を意識しながら英文を読むことができる
	ハフォーマット	ハフォーマット	定期検査 ライティングテスト	定期検査 リスニングテスト	定期検査 リーディングテスト

知識・技能	話すこと（やり取り）	〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している 〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身につけている
	話すこと（発表）	〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している 〈技能〉ターゲットとする文法を用いて話す技能を身につけている
	書くこと	〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。 〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身につけている。
思考・判断・表現	話すこと（やり取り）	簡単な表現であれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる 日常的に使用される英単語を使った簡単な表現を聞いて理解することができる
	話すこと（発表）	提示された基本文をアレンジして自分自身の意見や興味・関心のあることについて話すことができる
	書くこと	読み手に伝わるように正確な語順で30字程度のまとまった文を書くことができる
主体的に学習に取り組む態度	話すこと（やり取り）	筋道を立てて伝え合おうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している
	話すこと（発表）	筋道を立てて詳しく話そうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している
	書くこと	筋道を立てて詳しく書こうとしている。また、自分の書いたものを振り返り、改善点を見出している

令和5年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	論理表現 I	2	1年アドバンスクラス	中西・松井・ウツワース
教科書	My Way Logic and Expression I	副教材		

1. 学習の目標

言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- 「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。
- ①予習では、担当教員の指示を的確に聞き、指示に忠実に計画的に行うようにしましょう。評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」がこれに当てはまりますので、自ら学ぶ意思を持って取り組みましょう。
- ②授業では、「知識・技能」を身につけ、「思考・判断・表現」を英語という言語を用いて行えるように取り組みましょう。授業で学んだこと、理解したことについて、積極的に英語で表現しようとする力が力を伸ばすことにつながります。
- ③復習については授業の振り返りをその都度行い、記録するようにして自身の言語活動や授業の理解度を見直しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って

評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	単元で学習した語彙や表現、文法事項などについて理解しているか 学習した「知識」を基に、情報や考え、気持ちなどを論理的に話して伝える技能を身に付けているか
②思考・判断・表現 知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている。	提示された基本文をアレンジして自分自身の意見や興味・関心のあることについて話すことができる 簡単な表現であれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる 日常的に使用される英単語を使った簡単な表現を聞いて理解することができる 読み手に伝わるように正確な語順で30字程度のまとまった文を書くことができる
③主体的に学習に取り組む態度 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。	聞いたり読んだりしたこと基に、聞き手に配慮しながら自分の考えや気持ちを理由とともに伝え合おうとしていえるか。また、状況を把握し、粘り強く学習に取り組もうとしているか さまざまな日常的话题や社会的な话题のテーマについて、情報や考えなどを理由や根拠とともに書こうとしているか

4. 担当者からのメッセージ

論理・表現 I では英語の基礎となる文法を中心に学習していきます。文法は英語の4技能(読む・書く・聞く・話す)の根幹となる力です。文法を学ぶと、相手に伝わるような英語を話したり書いたりすることができます。また難しい文章を読む際にも、文法力があれば読み解くヒントを得ることができます。文法は授業を聞いただけでは身に付きません。復習をすることが大切になります。スタンプを活用したり、授業で解いた文法の練習問題をもう一度、自分の力で解きなおしてみるなど復習に力を入れてください。みなさんの英語の4技能を伸ばす基礎となるのが論理・表現 I です。

京都府立北稜高等学校 CAN-DOリスト					
	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと	聞くこと	読むこと
卒業時 目標	英語でさまざまな状況において話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を適切に伝えることができる				
第 3 学 年	○対話の展開を意識して、やり取り することができる	○適切な表現を用いて、即興で自分 自身の考えや興味・関心のあること について話すことができる	○文構造を意識して、読み手に伝わ るように理由や根拠を示した50字程 度のまとまった文を書くことができ る	○英語の指示を聞いて、意味を理解 し活動することができる	○少々難しい単語や表現があっても、前後関係から文を理解して全体の 概要を理解することができる
	○英語の音声的な特徴を意識し、発 音することができる		○論理表現Ⅱで学習する基本的文法 事項をほぼ正しく使い、書くことが できる	○簡単な表現であれば、ある程度ま とまった英語を聞いて概要を理解す ることができる	
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で日常的なさまざまな状況における話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の意図を簡単に伝えることができる				
第 2 学 年	○文単位で話すことができる	○事前に準備をしていれば、自分の 意見や興味・関心のあることについ て話すことができる	○読み手に伝わるように理由や根拠 を示した50字程度のまとまった文を 書くことができる	○ゆっくりであれば英語の指示を聞 いて、意味を理解し活動すること ができる	○英語コミュニケーションⅡの教科 書レベルの英文を、辞書などを使い ながらも、自力で文章の概要を理解 することができる
	○英語らしいリズムと単語の発音か おおむねできる		○論理表現Ⅱで学習する基本的文法 事項をおおむね正しく使い、書くこ とができる	○ゆっくり繰り返し話されれば英 語を聞いて概要を理解することがで きる	
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト
終了時 目標	英語で身近な事柄に関する話し手や書き手の意図を的確に理解するとともに、自分の考えを簡単に伝えることができる				
第 1 学 年	○フレーズ単位で話すことができる	○提示された基本文をアレンジして 自分自身の意見や興味・関心のある ことについて話すことができる	○読み手に伝わるように正確な語順で30字程度 のまとまった文を書くことができる	○日常的に使用される英単語を使っ た簡単な表現を聞いて理解すること ができる	○英語コミュニケーションⅠの教科 書レベルの英文を、辞書などを使い ながらも、自力で文章の概要を理解 することができる
	○英語らしい発音をすることができ る		○論理表現Ⅰで学習する基本的文法事項をおお むね正しく使い、書くことができる	○簡単な表現であれば英語の指示を 聞いて、意味を理解し活動すること ができる	○文構造を意識しながら英文を読む ことができる
	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	定期考査 ライティングテスト	定期考査 リスニングテスト	定期考査 リーディングテスト

知識・技能	話すこと（やり取り）	〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。 〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、伝え合う技能を身につけている。
	話すこと（発表）	〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。 〈技能〉ターゲットとする文法を用いて話す技能を身につけている。
	書くこと	〈知識〉ターゲットとする文法の意味や働きについて理解している。 〈技能〉ターゲットとする文法を用いて、書く技能を身につけている。
思考・判断・表現	話すこと（やり取り）	簡単な表現であれば英語の指示を聞いて、意味を理解し活動することができる 日常的に使用される英単語を使った簡単な表現を聞いて理解することができる
	話すこと（発表）	提示された基本文をアレンジして自分自身の意見や興味・関心のあることについて話すことができる
	書くこと	読み手に伝わるように正確な語順で30字程度のまとまった文を書くことができる
主体的に学習に取り組む態度	話すこと（やり取り）	筋道を立てて伝え合おうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。
	話すこと（発表）	筋道を立てて詳しく話そうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。
	書くこと	筋道を立てて詳しく書こうとしている。また、自分の書いたものを振り返り、改善点を見出している。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	情報 I	2	1年全コース	安藤圭亮 福井 仁
教科書	高等学校 情報 I (数研出版)	副教材	PC室 DesktopPC	

1. 学習の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

単にコンピュータの操作技術の習得に終わるのでなく、コンピュータや情報通信ネットワークに対する基礎的な理解を深め、情報社会の一員として思考力・判断力・表現力等を身に付ける。また、定期考査だけでなく、実習や提出物など毎時間の授業を大切にする態度も不可欠である。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	定期考査の基礎問題や演習課題の達成度を中心に評価する。
②思考力・判断力・表現力 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査の応用問題とPCを使った実習課題の達成度を評価する。
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	主にPCを用いた実習時に自分なりの創意工夫が見られたり、与えられた課題をより発展させようとしているか等を評価する。

4. 担当者からのメッセージ

情報についての基本的な知識やモラルを身につけ、情報技術を適切に使って身の回りの問題を解決しようとする態度を身につけて欲しいと思います。評価においては講義や実習の取組状況の比重が高いため、普段の授業では適切にメモをとったり、実習手順を聞き逃さないよう集中して聞くことを心がけてください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	第1編 情報社会の問題解決			
	第1章 情報とメディア キーボード入力 英数字入力	・「情報」とは何か、様々なメディアの特徴や、情報の適切な表現形式について理解する。 ・問題解決の過程と結果について評価し、改善することの意義や重要性を理解する。	・教科書内容を理解し、疑問の解決に努める。(以下同様) キーボード入力の熟達に努める。(以下同様) 提出物	【 】
	第2章 情報社会における法とセキュリティ キーボード入力 英数字・記号入力	・情報モラルにもとづいた行動や、法規・制度について理解する。 ・個人情報やプライバシーの保護・活用に関連する法律について理解する。 ・知的財産権の保護の必要性と、法規及び個人の責任について理解する。 ・情報セキュリティの重要性と、セキュリティ対策の方法を理解する。	提出物	【 】
	第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 キーボード入力 日本語入力	・人工知能やデジタルトランスフォーメーションなど、発展する情報技術と情報技術がもたらす社会の変化や経済の効率化について理解させる。 ・情報格差、インターネット依存症、インターネット上のトラブルなどを学ぶ。	提出物 いろいろな入力方法と表現について体験する。(以下同様)	【 】
	第2編 コミュニケーションと情報デザイン			
	第1章 情報のデジタル表現 キーボード入力 表計算アプリ利用	・アナログとデジタル情報の特徴を理解する。 ・ビットの概念、2進法による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解する。 ・データ圧縮の原理と具体例について理解する。	提出物	【 】
	第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 キーボード入力 表計算アプリ利用	・コミュニケーション手段の発展について、技術的な進歩を理解する。 ・コンピュータを使った通信の歴史も概観する。 ・適切な情報機器やメディアを選択し利用する方法を習得する。	提出物	【 】
2	第3編 コンピュータとプログラミング			
	第1章 コンピュータのしくみ	・コンピュータの構成を理解する。 ・ソフトウェアの基本的な内容を理解する。 ・コンピュータ内部における数の表現方法について理解する。	中間考査は行わない 提出物	【 】
	第2章 プログラミング プログラム言語利用	・アルゴリズムを用いて表現する方法を習得する。 ・プログラミング言語の実行のしくみについて理解する。 ・簡単なプログラムの作成を通してアルゴリズムやプログラミングの基本を理解する。	提出物	【 】
	第3章 モデル化とシミュレーション プログラム言語利用 表計算アプリ利用	・モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解し、実際の問題解決に活用できるようにする。	提出物	【 】
			期末考査	【 】
3	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用			
	第1章 ネットワークのしくみ コマンド入力体験	・プロトコルについて理解する。 ・通信の信頼性を確保するための方法について理解する。 ・IPアドレス、ドメイン名、URLとDNSによるインターネットでのウェブ閲覧、電子メール、情報の暗号化の原理やしくみを理解する。	提出物 提出物	【 】 【 】
	第2章 データベース データベース体験	・データベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて理解する。 ・データベースの種類や特徴と、社会生活に果たす役割と影響を理解する。	提出物	【 】
	第3章 データの分析	・データの形式に関する知識やデータの収集方法、データの種類について理解させる。 ・表計算ソフトウェアなどを使って簡単な数学的データ処理や分析を行う。	提出物	【 】
			学年末考査	【 】